

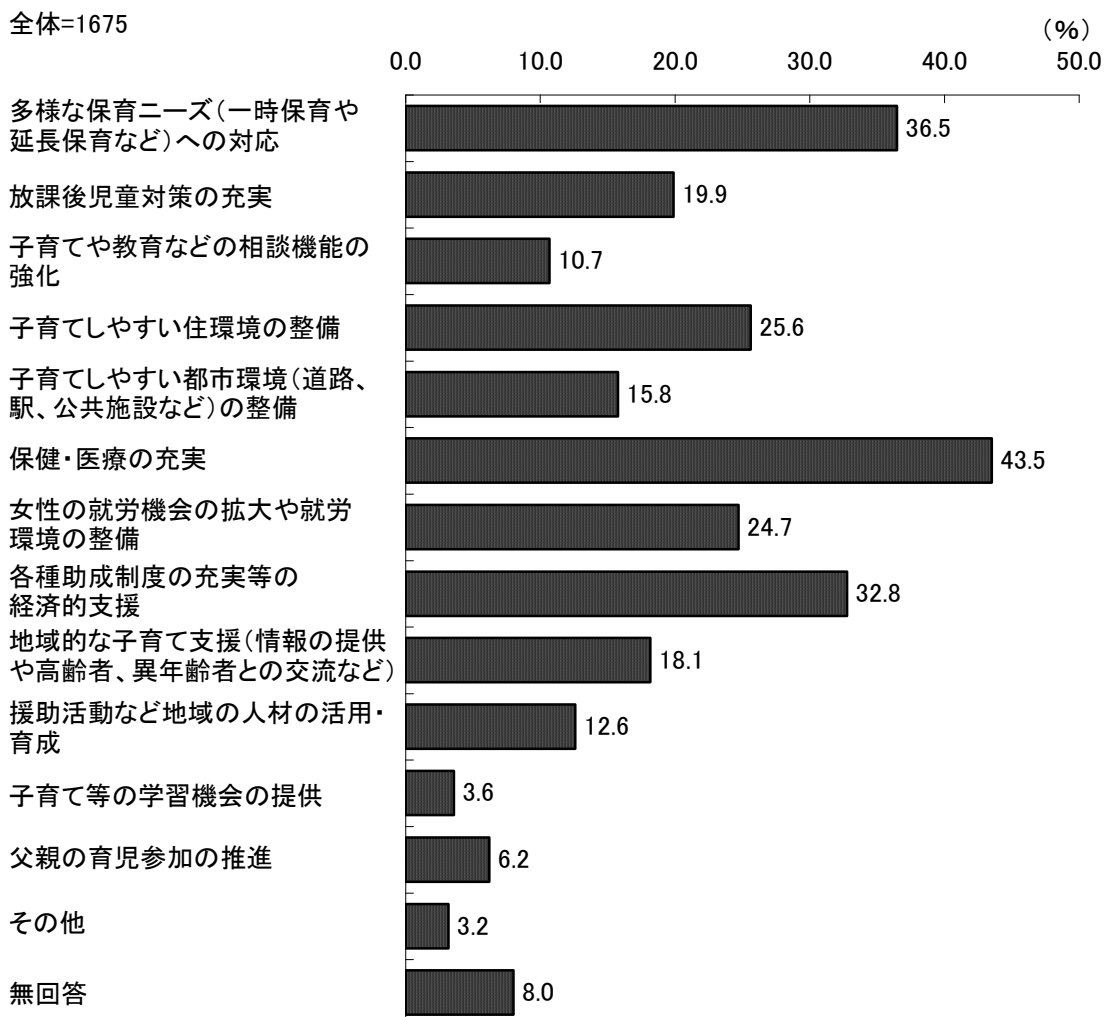
3. 今後のまちづくりについて

(1) 少子化社会に対応するために重要なこと（複数回答）

◆「保健・医療の充実」と「多様な保育ニーズへの対応」が4割前後

少子化社会に対応するために重要なことは、「保健・医療の充実」(43.5%)と「多様な保育ニーズ（一時保育や延長保育など）への対応」(36.5%)が4割前後で最も多く、ついで「各種助成制度の充実等の経済的支援」(32.8%)、「子育てしやすい住環境の整備」(25.6%)、「女性の就労機会の拡大や就労環境の整備」(24.7%)となっている。

問7(1) 今後の少子化社会に対応するためにはどのような施策が重要だとお考えですか。次の中から3つまで選び○をつけてください。



性別では、男性は「各種助成制度の充実等の経済的支援」をあげる人がやや多くなっている。一方、女性は「多様な保育ニーズ（一時保育や延長保育など）への対応」や「放課後児童対策の充実」、「女性の就労機会の拡大や就労環境の整備」をあげる人がやや多くなっている。

年齢別では、20代で「多様な保育ニーズ（一時保育や延長保育など）への対応」（50.0%）や「子育てしやすい住環境の整備」（33.3%）、「各種助成制度の充実等の経済的支援」（47.0%）、30代で「多様な保育ニーズ（一時保育や延長保育など）への対応」（52.0%）や「放課後児童対策の充実」（34.5%）が、他の年代に比べ多くなっている。

(%)

		n	多様な保育ニーズ（一時保育や延長保育など）への対応	放課後児童対策の充実	子育てや教育などの相談機能の強化	子育てしやすい住環境の整備	駅、公共施設などの整備	子育てしやすい都市環境（道路、保健・医療の充実	就業環境の整備	女性の就労機会の拡大や経済的支援	各種助成制度の充実等の経済的支援	地域的な子育て支援（情報の提供や高齢者、異年齢者との交流など）	活用・育成	援助活動など地域の人材の活用・育成	子育て等の学習機会の提供	父親の育児参加の推進	その他
全体		1675	36.5	19.9	10.7	25.6	15.8	43.5	24.7	32.8	18.1	12.6	3.6	6.2	3.2		
性別	男	807	34.8	18.3	10.4	28.0	16.9	46.0	21.4	39.3	16.6	12.6	3.7	5.5	3.7		
	女	773	40.6	23.2	10.9	23.3	15.5	42.7	29.0	27.3	19.4	12.5	2.8	7.0	2.7		
年齢	20～29歳	66	50.0	18.2	16.7	33.3	18.2	36.4	30.3	47.0	16.7	7.6	3.0	10.6	4.5		
	30～39歳	148	52.0	34.5	8.8	27.0	16.9	37.8	25.0	43.9	11.5	6.8	3.4	5.4	8.1		
	40～49歳	215	41.4	28.4	6.0	25.6	22.3	37.2	32.1	36.3	14.0	8.8	1.9	6.5	4.7		
	50～59歳	285	38.6	16.8	12.6	26.7	15.8	48.8	29.5	33.7	20.0	14.7	2.8	6.3	3.9		
	60歳以上	891	32.5	17.6	11.3	24.4	14.4	46.0	21.3	29.5	19.9	13.7	3.8	6.1	1.7		

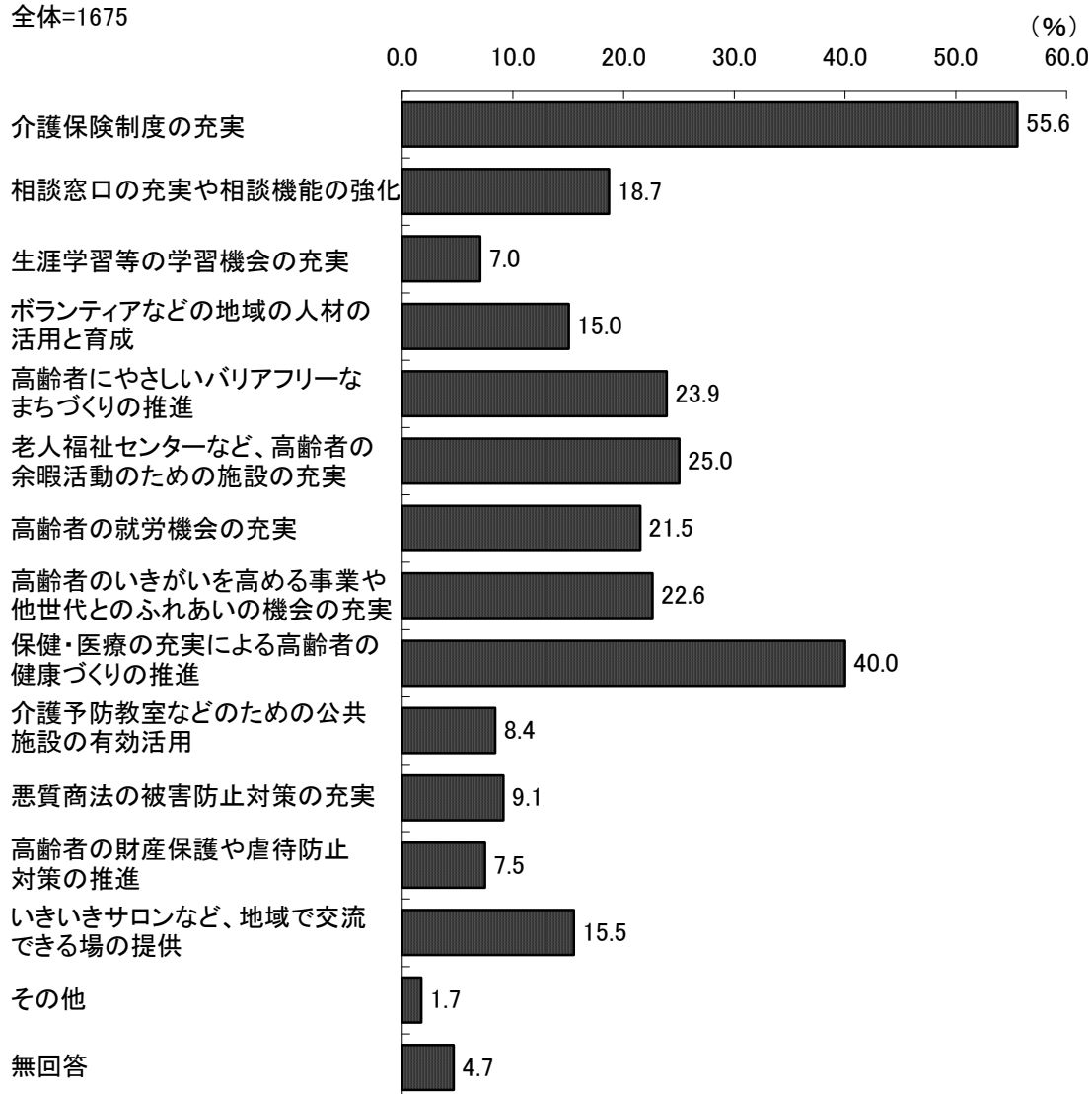
(2) 高齢化社会に対応するために重要なこと（複数回答）

◆「介護保険制度の充実」55.6%、「保健・医療の充実による高齢者の健康づくりの推進」40.0%

高齢化社会に対応するために重要なことは、「介護保険制度の充実」が55.6%で最も多く、ついで「保健・医療の充実による高齢者の健康づくりの推進」が40.0%となっている。

(2) 今後の高齢化社会に対応するためにはどのような施策が重要だとお考えですか。次の中から3つまで選び○をつけてください。

全体=1675



性別では、男性は「高齢者の就労機会の充実」と「保健・医療の充実による高齢者の健康づくりの推進」、女性は「高齢者にやさしいバリアフリーなまちづくりの推進」をあげる人がやや多くなっている。

年齢別では、20代は「高齢者にやさしいバリアフリーなまちづくりの推進」、30～50代は「高齢者の就労機会の充実」が、他の年代に比べ多くなっている。

(%)

		n	介護保険制度の充実	相談窓口の充実や相談機能の強化	生涯学習等の学習機会の充実	ボランティアなどの地域の 人材の活用と育成	高齢者にやさしいバリアフリーな まちづくりの推進	余暇活動のための施設の充実	高齢者の就労機会の充実	他世代とのふれあいの機会の充実	健康づくりの推進	保健・医療の充実による高齢者の 健康づくりの推進	介護予防教室などのための 公共施設の有効活用	悪質商法の被害防止対策の充実	高齢者の財産保護や虐待防止 対策の推進	いきいきサロンなど、地域で交流 できる場の提供	その他
全体		1675	55.6	18.7	7.0	15.0	23.9	25.0	21.5	22.6	40.0	8.4	9.1	7.5	15.5	1.7	
性別	男	807	56.4	17.6	8.7	14.0	21.4	25.4	26.3	22.7	43.4	8.2	9.3	6.8	12.4	1.7	
	女	773	56.7	21.0	5.7	16.2	27.4	24.8	18.4	23.3	37.4	8.9	8.3	7.6	18.6	1.9	
年齢	20～29歳	66	40.9	19.7	10.6	16.7	39.4	30.3	18.2	27.3	39.4	10.6	16.7	9.1	10.6	3.0	
	30～39歳	148	58.1	15.5	4.7	14.9	24.3	32.4	29.7	18.9	35.8	7.4	12.2	6.1	17.6	1.4	
	40～49歳	215	59.1	17.2	6.0	12.6	20.9	20.0	32.1	24.7	41.4	6.5	7.9	8.4	14.4	1.4	
	50～59歳	285	52.3	20.4	5.6	19.3	21.8	21.4	29.8	22.8	39.3	10.9	6.7	6.7	15.4	1.8	
	60歳以上	891	57.2	19.8	8.0	14.3	24.4	26.2	16.4	22.7	41.5	8.3	8.8	7.3	15.8	1.8	

(3) 行田市の環境の良さ

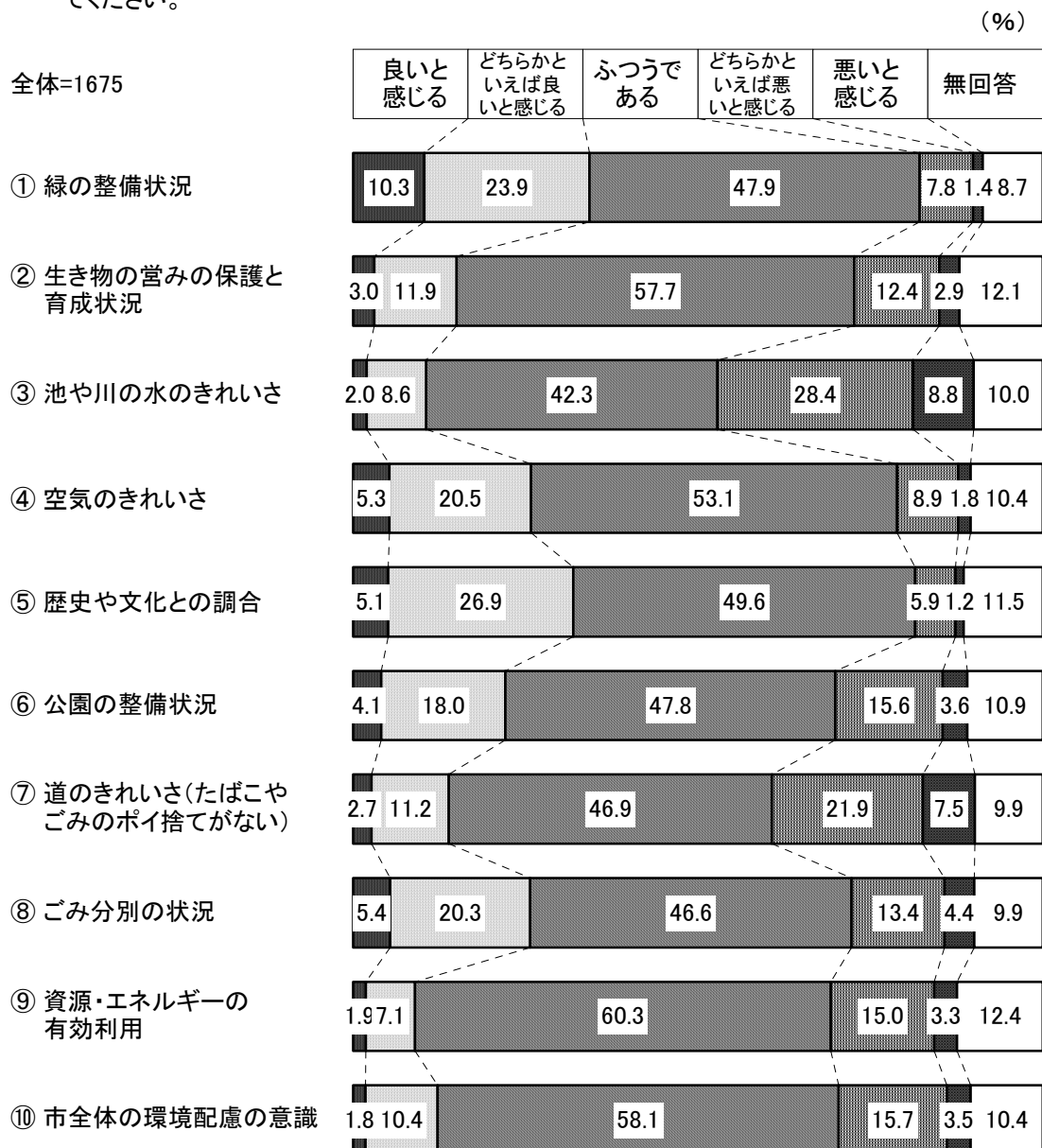
◆「緑の整備状況」「歴史や文化との調合」「空気のきれいさ」の満足層は3割前後

行田市の環境の良さについては、「緑の整備状況」で、『満足層』（「良いと感じる」、「どちらかといえば良いと感じる」と回答した人の割合）が34.2%、「歴史や文化との調合」32.0%、「空気のきれいさ」25.8%と、他の項目に比べ高くなっている。「ごみ分別の状況」については『満足層』が25.7%みられるが、『不満足層』も17.8%と多く、評価が分かれている。

一方、「池や川の水のきれいさ」と「道のきれいさ」では、『不満足層』（「悪いと感じる」、「どちらかといえば悪いと感じる」と回答した人の割合）が約3～4割と強い不満がうかがえる。

この他、「公園の整備状況」や「資源・エネルギーの有効利用」、「市全体の環境配慮の意識」は『不満足層』が約2割おり評価は低いといえる。

問8(1)行田市の環境は良いと感じますか。次の項目ごとに該当する番号をそれぞれ1つ選び○をつけてください。



性別では、女性で「ごみ分別の状況」がやや多くなっている。
 年齢別では、全体的に20代で『不満足層』が多くなっている。
 居住年数別では、7年未満で「公園の整備状況」、3年未満と15年以上20年未満で「資源・エネルギーの有効活用」が約3割弱と他の居住年数に比べて多くなっている。また、7年以上15年未満では「池や川の水のきれいさ」が44.6%となっている。
 居住地区別では、南河原で「公園の整備状況」が32.2%、北河原で「ごみ分別の状況」が28.6%と多くなっている。

行田市の環境の『不満足層』

(%)

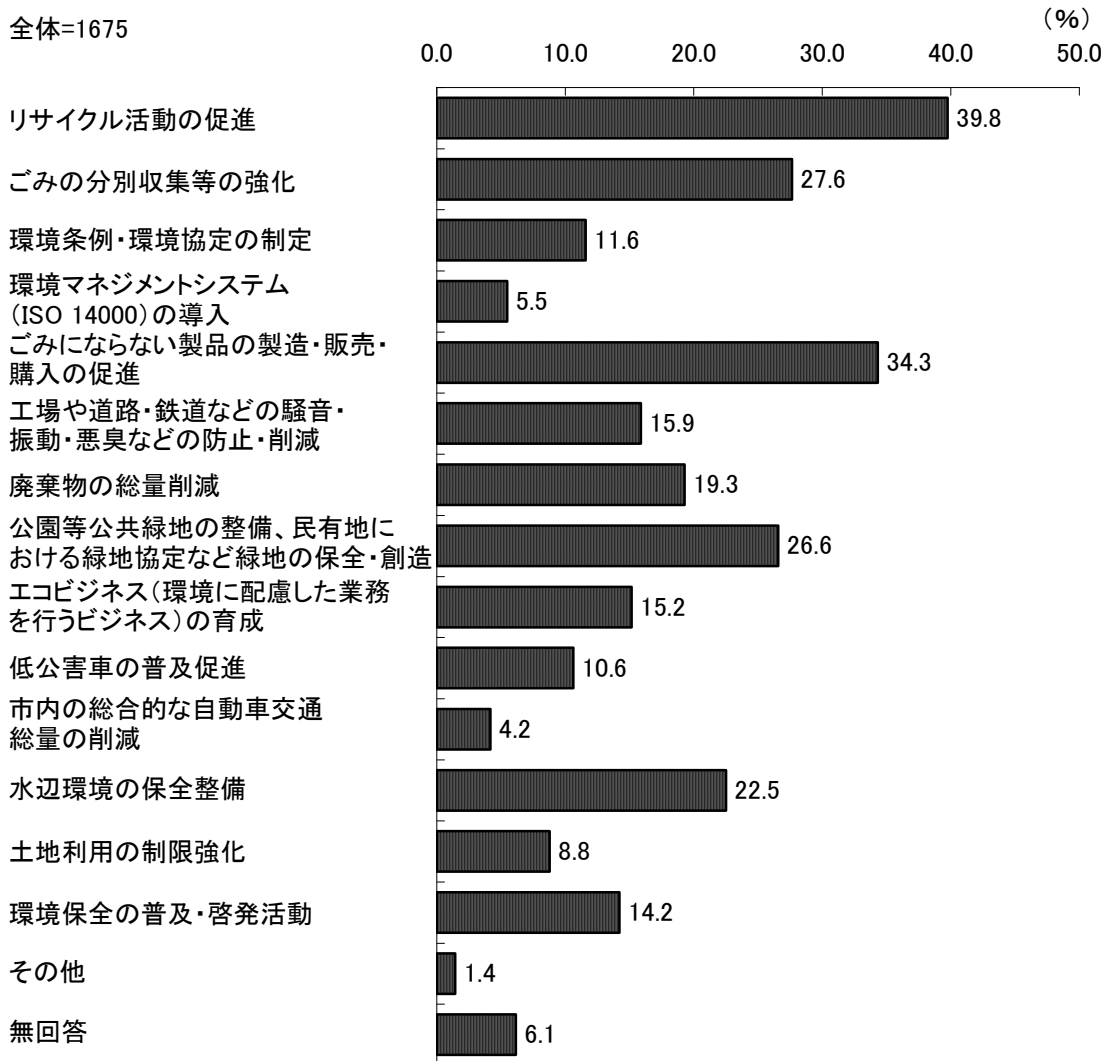
		n	緑の整備状況	生育物の営みの保護と育成状況	池や川の水のきれいさ	空気のきれいさ	歴史や文化との調合	公園の整備状況	道のきれいさ	ごみ分別の状況	資源・エネルギーの有効利用	市全体の環境配慮の意識
全体		1675	9.2	15.3	37.2	10.7	7.1	19.2	29.4	17.8	18.3	19.2
性別	男	807	10.0	18.5	39.7	9.6	7.3	19.2	28.8	15.0	20.8	21.2
	女	773	8.0	12.2	36.1	12.2	7.3	20.2	30.9	21.5	16.3	18.0
年齢	20～29歳	66	16.6	25.7	53.0	21.2	6.0	31.8	37.9	28.8	28.8	25.8
	30～39歳	148	8.8	12.2	41.3	17.6	6.7	23.0	30.4	21.6	23.0	23.0
	40～49歳	215	11.6	17.2	40.4	18.1	10.7	25.1	32.6	23.3	21.9	29.3
	50～59歳	285	10.9	18.6	40.7	8.8	8.4	22.8	36.5	21.4	24.2	24.9
	60歳以上	891	7.6	13.4	34.2	8.0	6.2	15.7	25.6	14.5	14.5	14.7
居住年数	3年未満	108	10.2	16.7	41.7	17.6	4.6	28.7	33.3	24.1	25.9	26.9
	3年以上7年未満	126	11.9	15.9	30.9	15.9	11.1	26.9	28.5	16.7	16.7	19.1
	7年以上15年未満	175	11.4	16.0	44.6	17.2	10.3	22.3	32.6	23.5	16.5	21.2
	15年以上20年未満	98	8.1	16.4	35.7	14.2	7.1	14.3	35.7	16.3	27.6	25.5
	20年以上	1094	8.5	14.5	36.7	8.4	6.6	17.7	27.9	17.0	17.5	18.3
居住地区	忍	135	5.9	14.1	31.1	8.8	8.8	14.1	26.7	14.0	17.0	17.1
	行田	102	10.8	22.6	45.1	14.7	5.9	20.6	27.4	17.6	19.6	20.6
	佐間	126	9.5	14.3	35.7	7.9	6.4	23.8	25.4	15.1	14.3	15.1
	持田	250	12.0	16.0	36.4	12.0	8.4	19.6	28.8	17.2	18.8	21.6
	星河	138	6.5	20.3	45.7	9.4	8.6	23.9	29.7	16.6	19.5	21.7
	長野	226	6.2	14.1	37.6	10.6	7.5	17.3	31.4	20.0	18.6	18.2
	星宮	41	14.6	17.1	41.5	9.8	4.8	19.5	26.9	12.2	17.0	19.5
	下忍	36	0.0	2.8	38.9	2.8	11.1	22.2	38.9	25.0	19.4	16.7
	荒木	75	13.3	20.0	46.7	17.3	2.7	20.0	34.7	24.0	24.0	18.7
	須加	35	5.7	5.8	31.4	8.6	8.6	25.7	31.5	17.1	17.2	20.0
	北河原	21	9.5	14.3	42.8	4.8	9.5	23.8	33.3	28.6	14.3	23.8
	埼玉	97	9.3	13.4	29.9	5.2	3.1	10.4	29.9	17.5	16.5	18.5
	太田	122	4.9	9.8	34.4	12.3	4.9	15.6	29.5	22.9	18.0	20.5
	太井	122	13.1	16.4	34.4	10.6	5.8	20.5	26.2	16.4	15.6	19.6
南河原	59	17.0	17.0	37.3	18.7	15.3	32.2	32.2	20.4	25.4	27.1	

(4) 環境保全・改善のために強化すべき活動（複数回答）

◆「リサイクル活動の促進」が4割、「ごみにならない製品の製造・販売・購入の促進」「ごみの分別収集等の強化」「公園等公共緑地の整備、民有地における緑地協定など緑地の保全・創造」が3割前後

環境保全・改善のために強化すべき活動は、「リサイクル活動の促進」が39.8%と最も多く、ついで「ごみにならない製品の製造・販売・購入の促進」(34.3%)、「ごみの分別収集等の強化」(27.6%)、「公園等公共緑地の整備、民有地における緑地協定など緑地の保全・創造」(26.6%)が3割前後で続いている。

(2) 市の環境を保全・改善するためにはどのような施策が重要だとお考えですか。次の中から3つまで選び○をつけてください。



性別では、男性は「水辺環境の保全整備」をあげる人がやや多くなっている。一方、女性は「ごみにならない製品の製造・販売・購入の促進」が40.5%と多くなっている。

年齢別では、20代は「リサイクル活動の促進」が47.0%、30代は「工場や道路・鉄道などの騒音・振動・悪臭などの防止・削減」が26.4%と他の年代と比較して多くなっている。

(%)

		n	リサイクル活動の促進	ごみの分別収集等の強化	環境条例・環境協定の制定	環境マネジメントシステム (ISO 14000) の導入	ごみにならない製品の製造・販売・購入の促進	工場や道路・鉄道などの騒音・振動・悪臭などの防止・削減	廃棄物の総量削減	おける緑地協定など緑地の保全・創造	公園等公共緑地の整備、民有地における緑地協定など緑地の保全・創造	エコビジネス(環境に配慮した業務を行うビジネス)の育成	低公害車の普及促進	市内の総合的な自動車交通総量の削減	水辺環境の保全整備	土地利用の制限強化	環境保全の普及・啓発活動	その他
全体		1675	39.8	27.6	11.6	5.5	34.3	15.9	19.3	26.6	15.2	10.6	4.2	22.5	8.8	14.2	1.4	
性別	男	807	43.0	27.0	14.7	7.2	29.4	14.4	17.8	29.4	15.5	11.9	3.6	27.0	8.3	16.6	1.2	
	女	773	37.3	28.1	9.1	3.9	40.5	17.2	20.6	25.4	15.9	10.0	4.7	18.4	8.7	11.8	1.8	
年齢	20～29 歳	66	47.0	24.2	7.6	7.6	33.3	21.2	24.2	30.3	15.2	15.2	1.5	27.3	12.1	10.6	3.0	
	30～39 歳	148	39.2	24.3	8.8	8.8	29.7	26.4	16.2	34.5	21.6	12.8	3.4	22.3	4.7	9.5	2.0	
	40～49 歳	215	39.5	27.4	13.0	7.0	33.0	15.8	20.5	25.1	18.6	14.4	1.9	16.3	11.2	11.2	2.3	
	50～59 歳	285	36.8	27.4	14.7	7.7	34.4	19.6	19.3	30.2	18.9	9.5	3.9	26.0	7.4	13.0	0.7	
	60 歳以上	891	40.3	28.4	11.6	3.9	35.6	12.7	18.9	25.3	12.6	9.7	5.4	22.9	9.0	16.5	1.3	

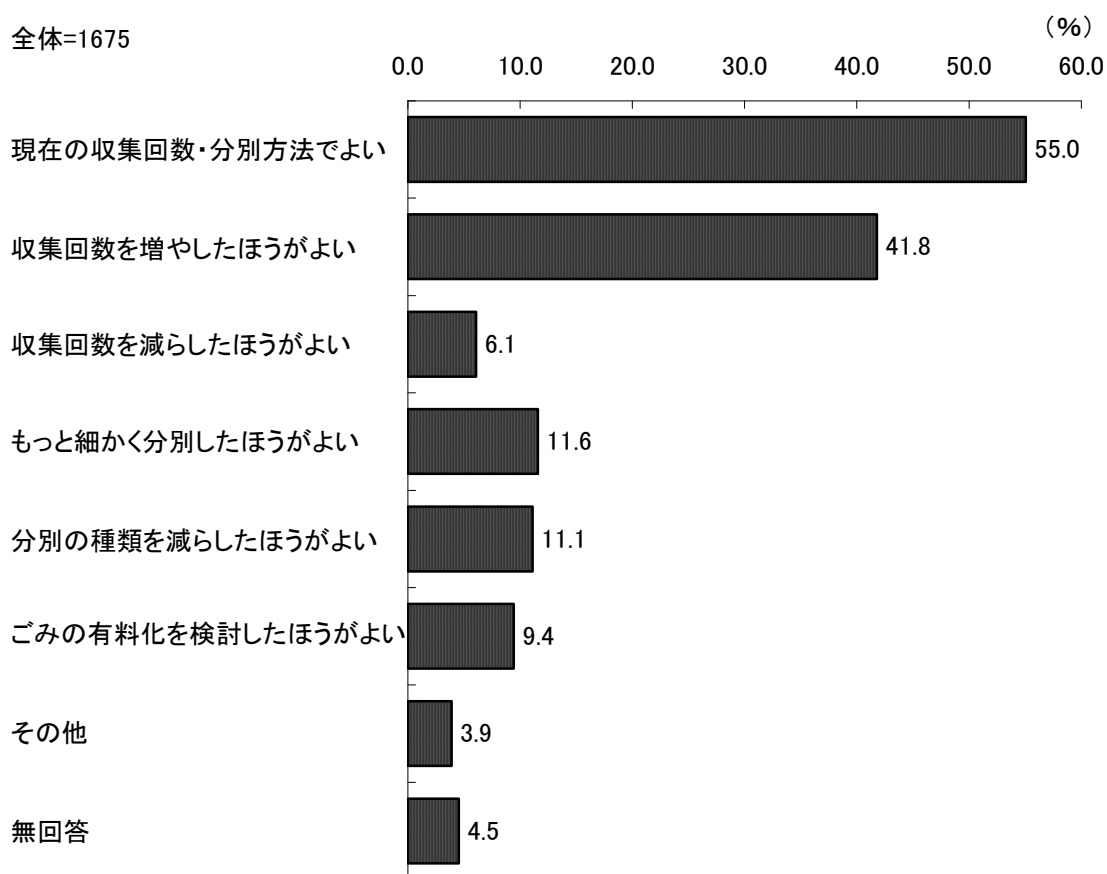
(5) 市のごみ収集体制について

①収集回数や分別方法について（複数回答）

◆ごみ収集回数は「現在の収集回数・分別方法でよい」が55.0%、「収集回数を増やしたほうがよい」が41.8%

ごみの収集回数について、「現在の収集回数・分別方法でよい」が55.0%で最も多いが、「収集回数を増やしたほうがよい」とする人も41.8%にのぼる。

(3)市のごみ収集体制(収集回数や分別方法など)についてどのようにお考えですか。次の中から2つまで選び○をつけてください。



性別では、あまり大きな差はみられない。

年齢別では、20～40代では「収集回数を増やしたほうがよい」とする人が5割を超えているが、50代以上では「現在の収集回数・分別方法でよい」とする人が約5～7割となっている。

居住年数別では、20年未満では「収集回数を増やしたほうがよい」とする人が5割前後となっているが、20年以上では37.7%にとどまり、「現在の収集回数・分別方法でよい」が60.5%となっている。

居住地区別では、太田と南河原で「収集回数を増やしたほうがよい」とする人が5割を超えている。

(%)

		n	現在の収集回数・ 分別方法でよい	収集回数を増やした ほうがよい	収集回数を減らした ほうがよい	もっと細かく分別した ほうがよい	分別の種類を減らした ほうがよい	ごみの有料化を検討 したほうがよい	その他	無回答
全体		1675	55.0	41.8	6.1	11.6	11.1	9.4	3.9	4.5
性別	男	807	57.2	39.7	5.7	14.0	12.0	10.9	3.3	3.1
	女	773	54.6	45.0	5.6	9.4	9.6	7.9	4.8	3.6
年齢	20～29歳	66	42.4	54.5	10.6	15.2	6.1	3.0	3.0	1.5
	30～39歳	148	32.4	64.9	9.5	12.8	8.1	4.1	10.8	0.7
	40～49歳	215	39.5	52.1	5.1	14.0	7.4	7.4	4.7	2.3
	50～59歳	285	49.5	44.6	5.3	11.9	12.6	12.3	3.5	2.1
	60歳以上	891	66.6	34.0	5.1	10.4	12.2	10.5	2.9	5.3
居住年数	3年未満	108	39.8	57.4	6.5	15.7	9.3	5.6	7.4	1.9
	3年以上7年未満	126	46.0	52.4	6.3	16.7	11.1	3.2	4.8	1.6
	7年以上15年未満	175	47.4	48.0	8.0	9.1	8.6	9.1	5.7	2.9
	15年以上20年未満	98	44.9	51.0	5.1	15.3	9.2	11.2	2.0	2.0
	20年以上	1094	60.5	37.7	5.4	10.7	11.6	10.5	3.5	4.6
居住地区	忍	135	69.6	36.3	3.7	8.1	6.7	10.4	2.2	3.0
	行田	102	56.9	40.2	6.9	11.8	13.7	2.0	5.9	5.9
	佐間	126	59.5	42.1	4.8	11.1	7.1	10.3	1.6	3.2
	持田	250	63.6	37.2	6.8	12.0	12.4	7.6	6.8	1.2
	星河	138	58.7	44.9	8.0	10.9	10.9	13.8	2.9	2.2
	長野	226	58.0	42.0	5.3	14.2	11.9	10.6	4.4	3.1
	星宮	41	39.0	39.0	9.8	17.1	12.2	9.8	4.9	9.8
	下忍	36	55.6	33.3	0.0	8.3	19.4	16.7	2.8	5.6
	荒木	75	44.0	40.0	6.7	8.0	9.3	10.7	4.0	8.0
	須加	35	54.3	25.7	2.9	11.4	14.3	8.6	2.9	14.3
	北河原	21	42.9	47.6	0.0	4.8	14.3	4.8	4.8	9.5
	埼玉	97	46.4	45.4	2.1	14.4	9.3	7.2	2.1	5.2
	太田	122	40.2	53.3	3.3	13.9	16.4	9.8	4.1	4.1
	太井	122	59.0	43.4	11.5	9.0	4.1	10.7	2.5	1.6
南河原	59	35.6	57.6	3.4	15.3	13.6	8.5	3.4	5.1	

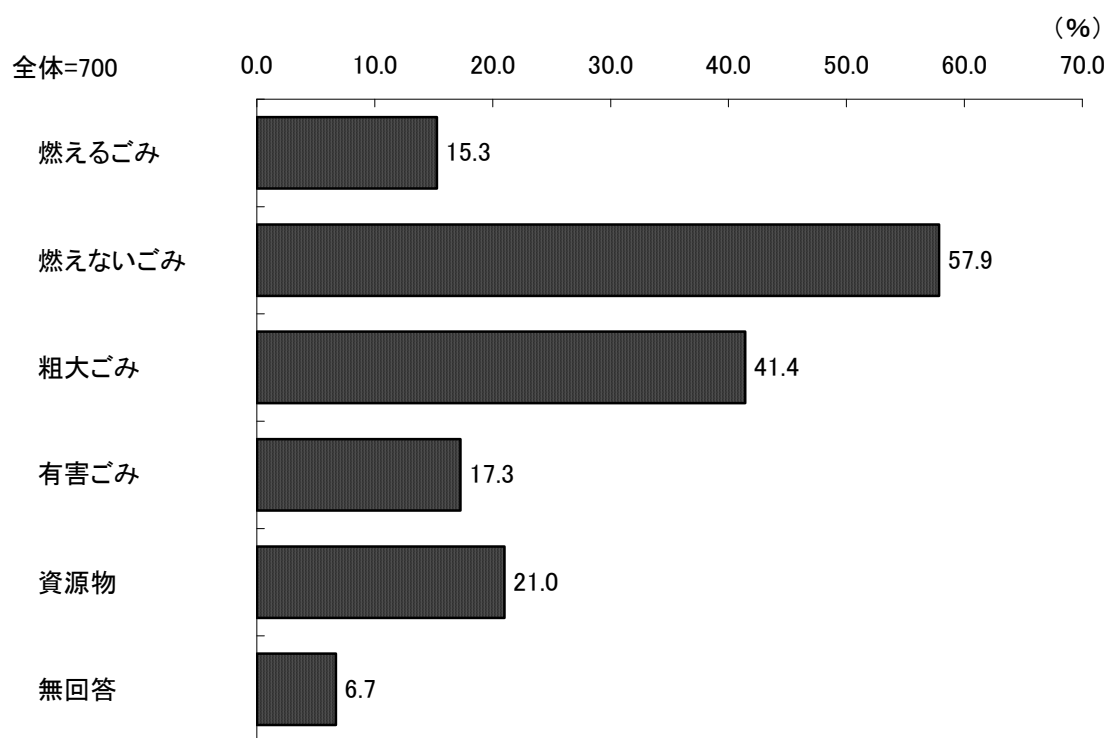
②ごみ収集回数を増やしたほうがよいもの（複数回答）

◆収集回数の増加を求める人の57.9%は、燃えないごみの回数増をあげている

ごみ収集回数を増やしたほうがよいものとしては、「燃えないごみ」が57.9%と最も多く、ついで「粗大ごみ」が41.4%となっている。

性別では、男性は「粗大ごみ」、「有害ごみ」をあげる人が多く、女性は「燃えないごみ」をあげる人が多くなっている。

※<(3)で「2. 収集回数を増やしたほうがよい」とお答えになった方にお尋ねします>
増やしたほうがよいものを次の①～⑤の中からすべて選び○をつけてください。



(%)

		n	燃えるごみ	燃えないごみ	粗大ごみ	有害ごみ	資源物	無回答
全体		700	15.3	57.9	41.4	17.3	21.0	6.7
性別	男	320	14.4	53.1	46.6	20.9	20.6	7.5
	女	348	15.8	64.1	37.1	14.9	22.1	4.9

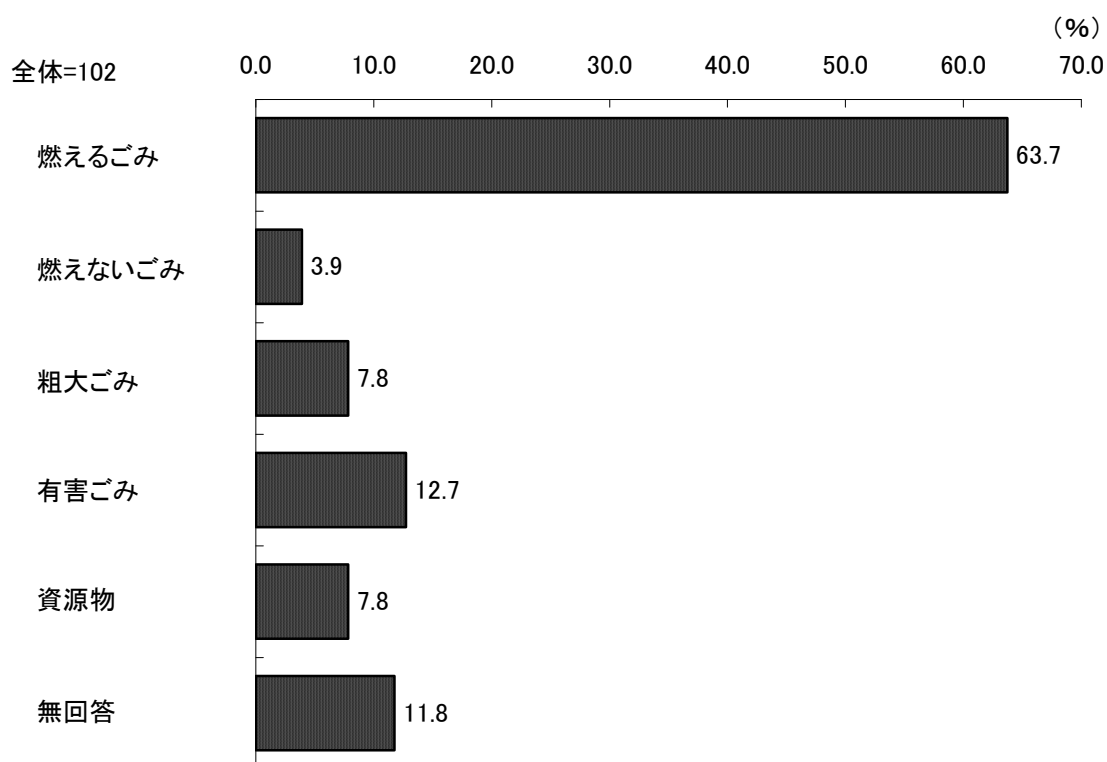
③ごみ収集回数を減らしたほうがよいもの（複数回答）

◆収集回数の減少を求める人の大半は、燃えるごみをあげている

ごみ収集回数を減らしたほうがよいとする人は少ないが、減らしたほうがよいとしているのは「燃えるごみ」が63.7%を占めている。

性別による大きな差はみられない。

※<(3)で「3. 収集回数を減らしたほうがよい」とお答えになった方にお尋ねします>
減らしたほうがよいものを次の①～⑤の中からすべて選び○をつけてください。



(%)

		n	燃えるごみ	燃えないごみ	粗大ごみ	有害ごみ	資源物	無回答
全体		102	63.7	3.9	7.8	12.7	7.8	11.8
性別	男	46	67.4	4.3	8.7	13.0	8.7	8.7
	女	43	69.8	2.3	7.0	9.3	9.3	7.0

(6) 健康についてのイメージ (複数回答)

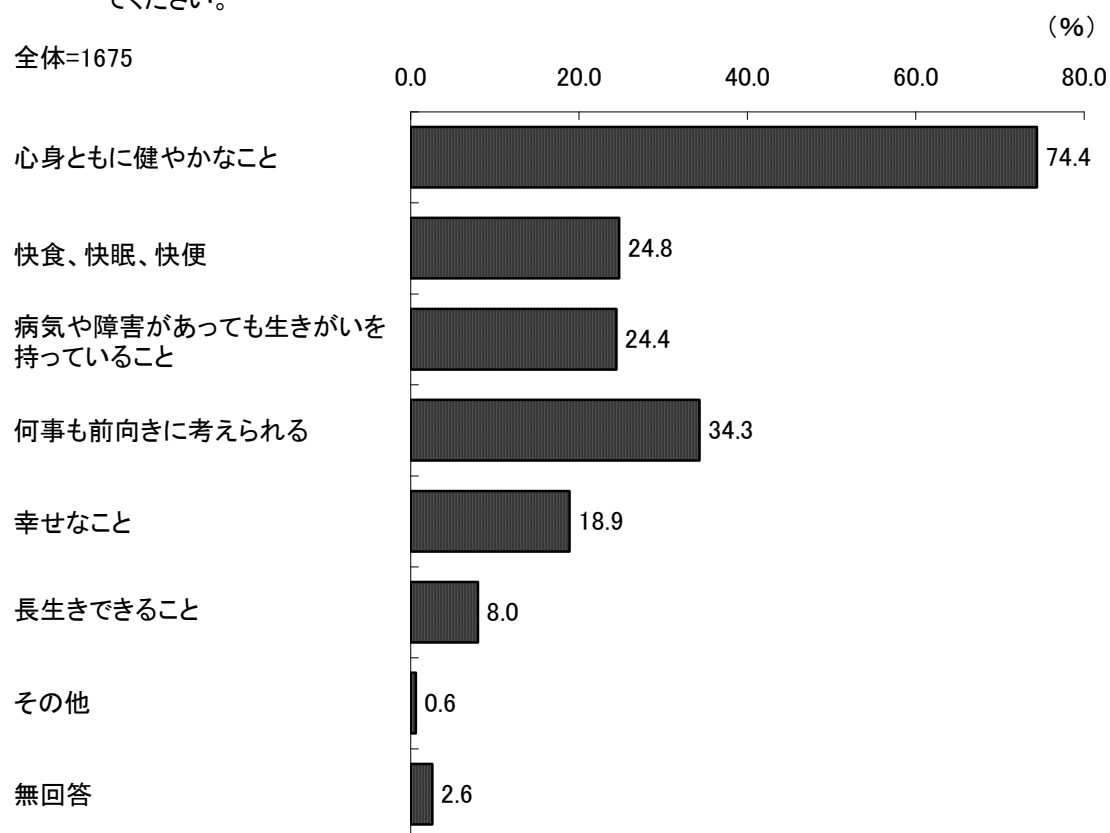
◆「心身ともに健やかなこと」が74.4%

健康についてのイメージとしては、「心身ともに健やかなこと」が74.4%と大半を占め、ついで「何事も前向きに考えられる」が34.3%となっている。

性別にみても大きな差はみられない。

年齢別にみると、20代では「幸せなこと」が3割となっているのに対し、50代以上では「何事も前向きに考えられる」が4割近くとなっている。

問9(1)あなたは、健康についてどのようなイメージをもっていますか。次の中から2つまで選び○をつけてください。



(%)

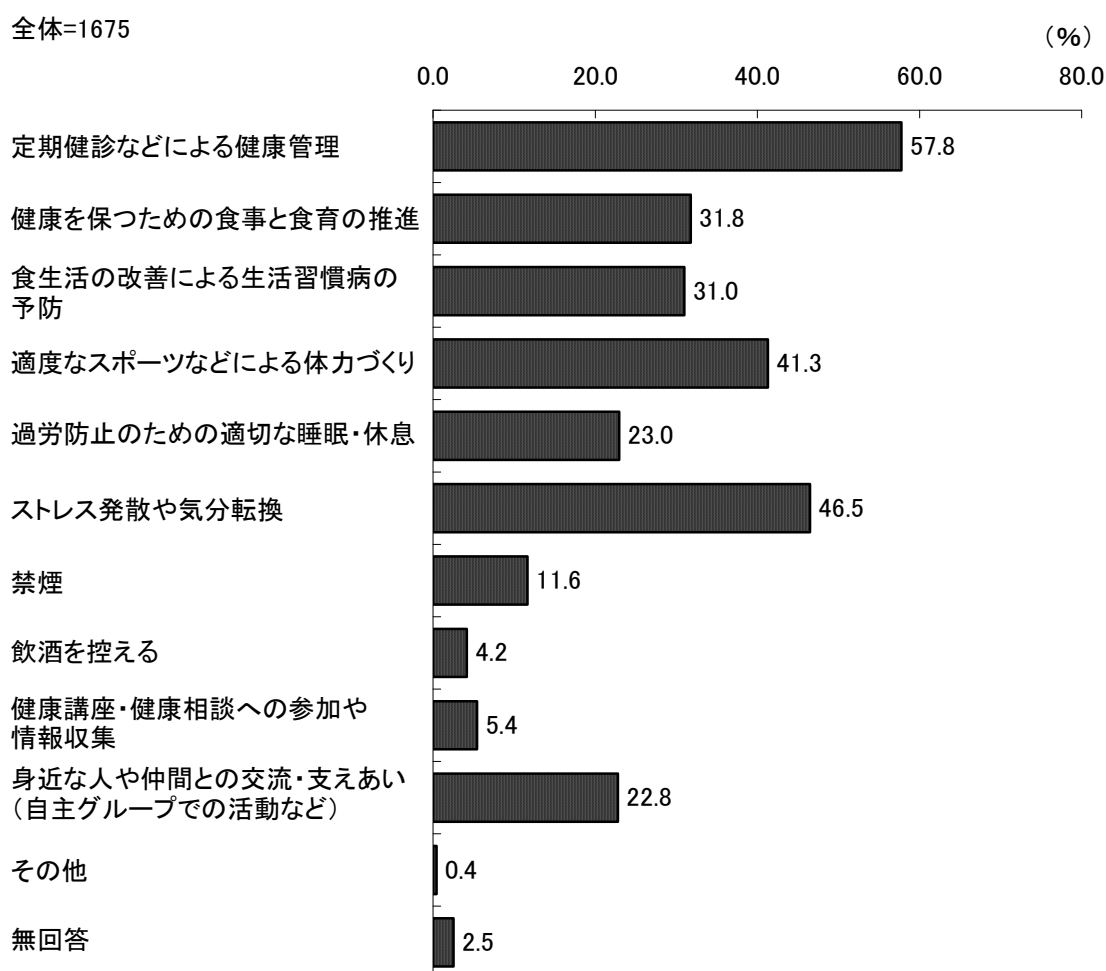
		n	心身ともに 健やかな こと	快食 快眠 快便	病気や障 害があっ ても生きが いを持つて いること	何事も前 向きに考 えられる	幸せなこと	長生き できること	その他
全体		1675	74.4	24.8	24.4	34.3	18.9	8.0	0.6
性別	男	807	75.8	25.3	25.7	32.6	18.3	9.0	0.6
	女	773	75.7	23.5	23.3	36.9	19.5	6.7	0.6
年齢	20～29歳	66	81.8	21.2	16.7	21.2	30.3	3.0	4.5
	30～39歳	148	78.4	29.1	21.6	21.6	23.6	8.1	0.0
	40～49歳	215	81.4	20.5	20.5	30.2	24.7	6.0	0.9
	50～59歳	285	83.9	19.3	23.9	37.9	18.2	4.9	0.4
	60歳以上	891	70.4	26.7	26.8	37.8	16.0	9.7	0.4

(7) 健康づくりのために重要なこと（複数回答）

◆「定期健診などによる健康管理」が57.8%

健康づくりのために重要なことは、「定期健診などによる健康管理」が57.8%で最も多く、ついで「ストレス発散や気分転換」（46.5%）、「適度なスポーツなどによる体力づくり」（41.3%）、「健康を保つための食事と食育の推進」（31.8%）、「食生活の改善による生活習慣病の予防」（31.0%）が続いている。

(2) 健康づくりのためには何が重要だとお考えですか。次の中から3つまで選び○をつけてください。



性別にみると、男性で「適度なスポーツなどによる体力づくり」が 47.2%と女性に比べて多くなっている。

年齢別では、20～40代では「ストレス発散や気分転換」が6割近くにのに対し、60歳以上では4割にとどまり、「身近な人や仲間との交流・支えあい（自主グループでの活動など）」が約3割と多くなっている。

(%)

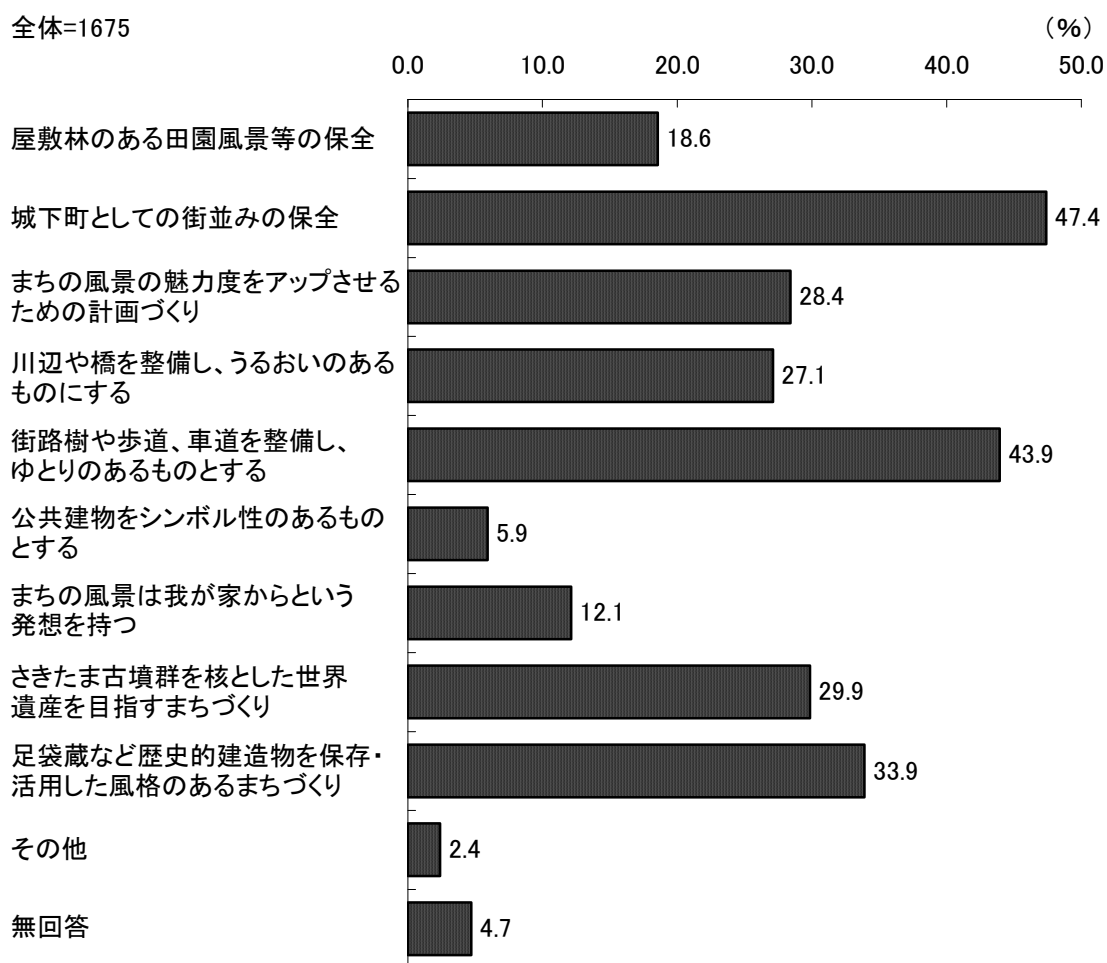
		n	定期健診などによる健康管理	健康を保つための食事と食育の推進	食生活の改善による生活習慣病の予防	適度なスポーツなどによる体力づくり	過労防止のための適切な睡眠・休息	ストレス発散や気分転換	禁煙	飲酒を控える	健康講座・健康相談への参加や情報収集	身近な人や仲間との交流・支えあい（自主グループでの活動など）
全体		1675	57.8	31.8	31.0	41.3	23.0	46.5	11.6	4.2	5.4	22.8
性別	男	807	59.4	29.5	32.2	47.2	20.8	43.4	14.5	5.9	5.3	20.0
	女	773	57.2	35.3	31.0	36.5	25.2	51.0	8.9	1.7	5.6	25.0
年齢	20～29歳	66	51.5	27.3	34.8	53.0	34.8	59.1	7.6	4.5	4.5	10.6
	30～39歳	148	50.7	35.1	31.8	50.0	25.0	57.4	12.8	3.4	4.1	10.8
	40～49歳	215	55.3	29.8	34.4	47.0	24.2	58.1	11.6	2.8	1.9	10.7
	50～59歳	285	56.1	30.2	31.9	47.7	21.8	50.2	12.6	1.8	6.7	20.7
	60歳以上	891	61.4	32.9	30.3	36.1	22.1	40.5	11.6	5.5	6.2	28.5

(8) 歴史を生かした魅力ある景観づくりに重要なこと（複数回答）

◆「城下町としての街並みの保全」と「街路樹や歩道、車道を整備し、ゆとりのあるものとする」が4割台

歴史を生かした魅力ある景観づくりに重要なことは、「城下町としての街並みの保全」(47.4%)と「街路樹や歩道、車道を整備し、ゆとりのあるものとする」(43.9%)が40%台で最も多く、ついで「足袋蔵など歴史的建造物を保存・活用した風格のあるまちづくり」(33.9%)、「さきたま古墳群を核とした世界遺産を目指すまちづくり」(29.9%)、「まちの風景の魅力度をアップさせるための計画づくり」(28.4%)、「川辺や橋を整備し、うるおいのあるものにする」(27.1%)が30%前後となっている。

問 10 歴史や文化遺産を生かしたまちづくりのためにはどのような施策が重要だとお考えですか。次の中から3つまで選び○をつけてください。



性別にみると、男性では「まちの風景の魅力度をアップさせるための計画づくり」と「川辺や橋を整備し、うるおいのあるものにする」が約3割と女性に比べやや多くなっている。一方、女性では「足袋蔵など歴史的建造物を保存・活用した風格のあるまちづくり」が4割弱と男性に比べやや多くなっている。

年齢別では、30代以上では「街路樹や歩道、車道を整備し、ゆとりのあるものとする」が4割前後となっているが、20代では33.3%にとどまり、「川辺や橋を整備し、うるおいのあるものにする」が39.4%と多くなっている。

(%)

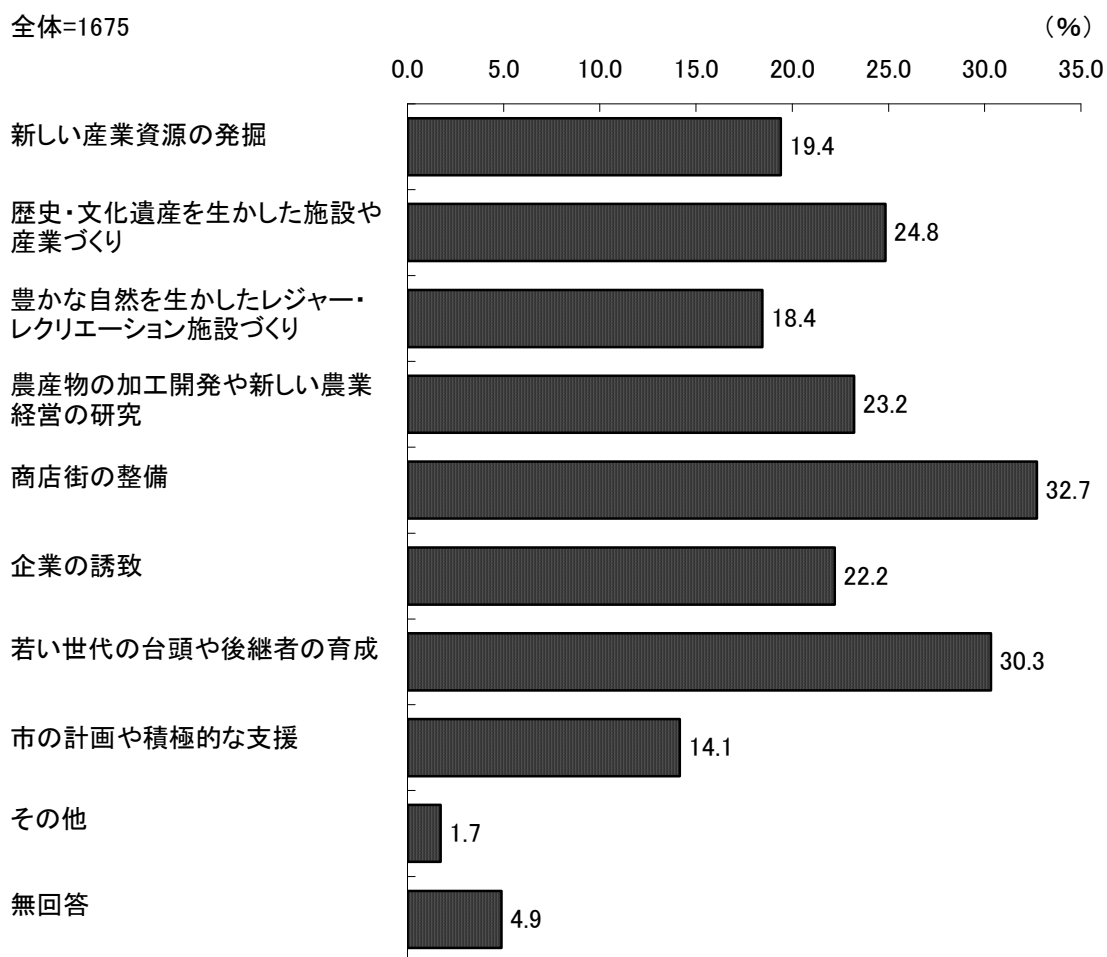
		n	屋敷林のある田園風景等の保全	城下町としての街並みの保全	まちの風景の魅力度をアップさせるための計画づくり	川辺や橋を整備し、うるおいのあるものにする	街路樹や歩道、車道を整備し、ゆとりのあるものとする	公共建物をシンボル性のあるものとする	まちの風景は我が家からという発想を持つ	さきたま古墳群を核とした世界遺産を目指すまちづくり	足袋蔵など歴史的建造物を保存・活用した風格のあるまちづくり
全体		1675	18.6	47.4	28.4	27.1	43.9	5.9	12.1	29.9	33.9
性別	男	807	19.2	49.1	32.5	30.2	45.0	5.6	11.6	31.5	31.1
	女	773	18.0	47.1	25.1	24.1	43.3	6.2	12.8	28.6	37.9
年齢	20～29歳	66	18.2	53.0	27.3	39.4	33.3	10.6	1.5	33.3	28.8
	30～39歳	148	16.9	50.7	33.1	22.3	45.3	4.1	9.5	31.1	32.4
	40～49歳	215	17.7	49.3	30.2	27.4	39.1	7.4	9.3	24.7	34.0
	50～59歳	285	15.4	48.8	31.6	27.7	44.6	5.3	11.2	27.7	33.3
	60歳以上	891	20.3	45.8	27.0	27.0	45.5	5.7	14.4	31.6	35.2

(9) 商業や産業の振興に重要なこと（複数回答）

◆「商店街の整備」「後継者の育成」が重要と考える市民が3割強

商業や産業の振興に重要なことは、「商店街の整備」(32.7%)と「若い世代の台頭や後継者の育成」(30.3%)が3割強と最も多く、ついで「歴史・文化遺産を生かした施設や産業づくり」(24.8%)、「農産物の加工開発や新しい農業経営の研究」(23.2%)、「企業の誘致」(22.2%)など、意見が分散している。

問 11 市の商業や産業の振興のためにはどのような施策が重要だとお考えですか。次の中から2つまで選び○をつけてください。



性別では、男性は「新しい産業資源の発掘」「企業の誘致」をあげる人がやや多くなっている。

年齢別では、20代は「商店街の整備」と「若い世代の台頭や後継者の育成」、30代は「豊かな自然を生かしたレジャー・レクリエーション施設づくり」と「商店街の整備」が多くなっている。

職業別では、会社等事務従事者は「商店街の整備」が45.5%、公務員、教員は「歴史・文化遺産を生かした施設や産業づくり」と「商店街の整備」が38.5%、農林漁業、畜産業は「農産物の加工開発や新しい農業経営の研究」が48.6%と多くなっている。

(%)

		n	新しい産業資源の発掘	歴史・文化遺産を生かした施設や産業づくり	豊かな自然を生かしたレジャー・レクリエーション施設づくり	農産物の加工開発や新しい農業経営の研究	商店街の整備	企業の誘致	若い世代の台頭や後継者の育成	市の計画や積極的な支援
全体		1675	19.4	24.8	18.4	23.2	32.7	22.2	30.3	14.1
性別	男	807	24.3	24.3	17.6	25.0	30.6	27.0	28.3	13.6
	女	773	15.5	26.0	19.8	21.9	35.6	17.2	32.7	15.1
年齢	20～29歳	66	15.2	33.3	19.7	16.7	40.9	12.1	40.9	16.7
	30～39歳	148	12.8	27.7	33.1	13.5	39.9	18.9	29.1	16.9
	40～49歳	215	14.0	26.0	22.3	21.4	35.8	25.1	26.0	14.9
	50～59歳	285	23.2	26.3	15.4	26.3	29.8	24.9	27.4	15.4
	60歳以上	891	21.5	23.2	16.0	25.5	31.4	21.8	31.6	13.5
職業	専門職	69	21.7	30.4	24.6	20.3	21.7	23.2	30.4	11.6
	管理職	88	23.9	30.7	13.6	20.5	33.0	31.8	27.3	18.2
	会社等事務従事者	112	11.6	22.3	21.4	25.0	45.5	18.8	33.9	15.2
	公務員、教員	52	17.3	38.5	15.4	17.3	38.5	19.2	25.0	13.5
	製造業、小売業等従事者、運転手	153	20.9	28.1	22.2	19.0	33.3	30.7	27.5	11.1
	農林漁業、畜産業	37	27.0	16.2	5.4	48.6	10.8	24.3	43.2	2.7
	サービス業	84	26.2	20.2	17.9	17.9	36.9	22.6	28.6	15.5
	自営業	95	21.1	27.4	14.7	30.5	21.1	23.2	33.7	22.1
	学生	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0
	主婦	260	13.8	26.5	21.2	22.3	38.8	17.7	35.4	15.0
	無職	534	22.1	21.7	18.5	24.2	30.0	21.5	27.7	13.5
その他	107	19.6	24.3	13.1	27.1	40.2	17.8	28.0	19.6	
居住年数	3年未満	108	17.6	26.9	24.1	22.2	38.0	18.5	25.9	17.6
	3年以上7年未満	126	15.9	31.7	27.8	15.1	33.3	19.0	31.7	15.9
	7年以上15年未満	175	15.4	25.1	22.9	20.6	38.9	27.4	25.1	16.6
	15年以上20年未満	98	22.4	27.6	23.5	27.6	25.5	28.6	27.6	11.2
	20年以上	1094	20.7	23.6	15.9	24.6	32.0	21.5	31.8	14.1

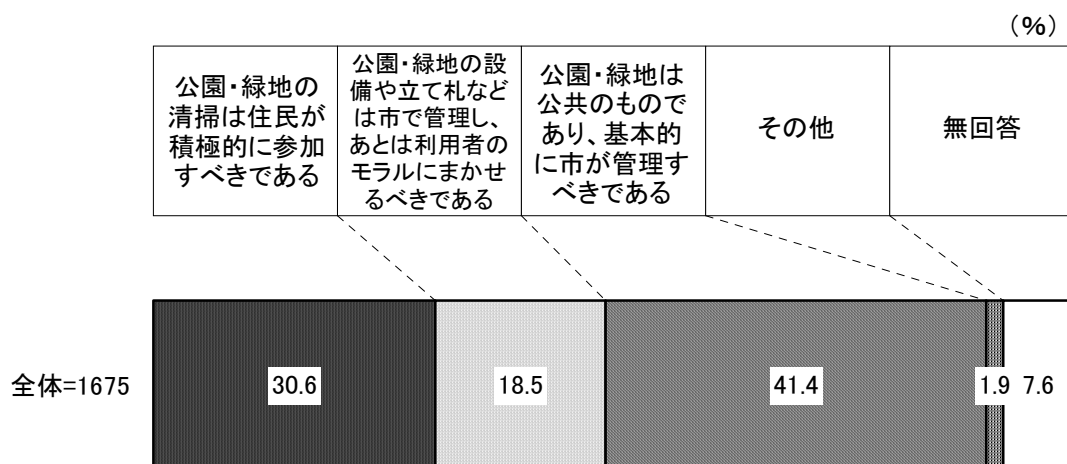
(10) 公園・緑地の維持管理について

◆「基本的に市が管理すべきである」が41.4%、「住民が積極的に参加すべきである」が30.6%

公園・緑地の維持管理については、「公園・緑地は公共のものであり、基本的に市が管理すべきである」が41.4%なのに対し、「公園・緑地の清掃は住民が積極的に参加すべきである」が30.6%となっている。「公園・緑地の設備や立て札などは市で管理し、あとは利用者のモラルにまかせるべきである」は18.5%である。

性別にみても大きな差はみられない。

問 12 市民の憩いの場であり、また子どもたちの遊び場である公園・緑地の維持管理についてどのようにすべきだとお考えですか。次の中から1つ選び○をつけてください。



(%)

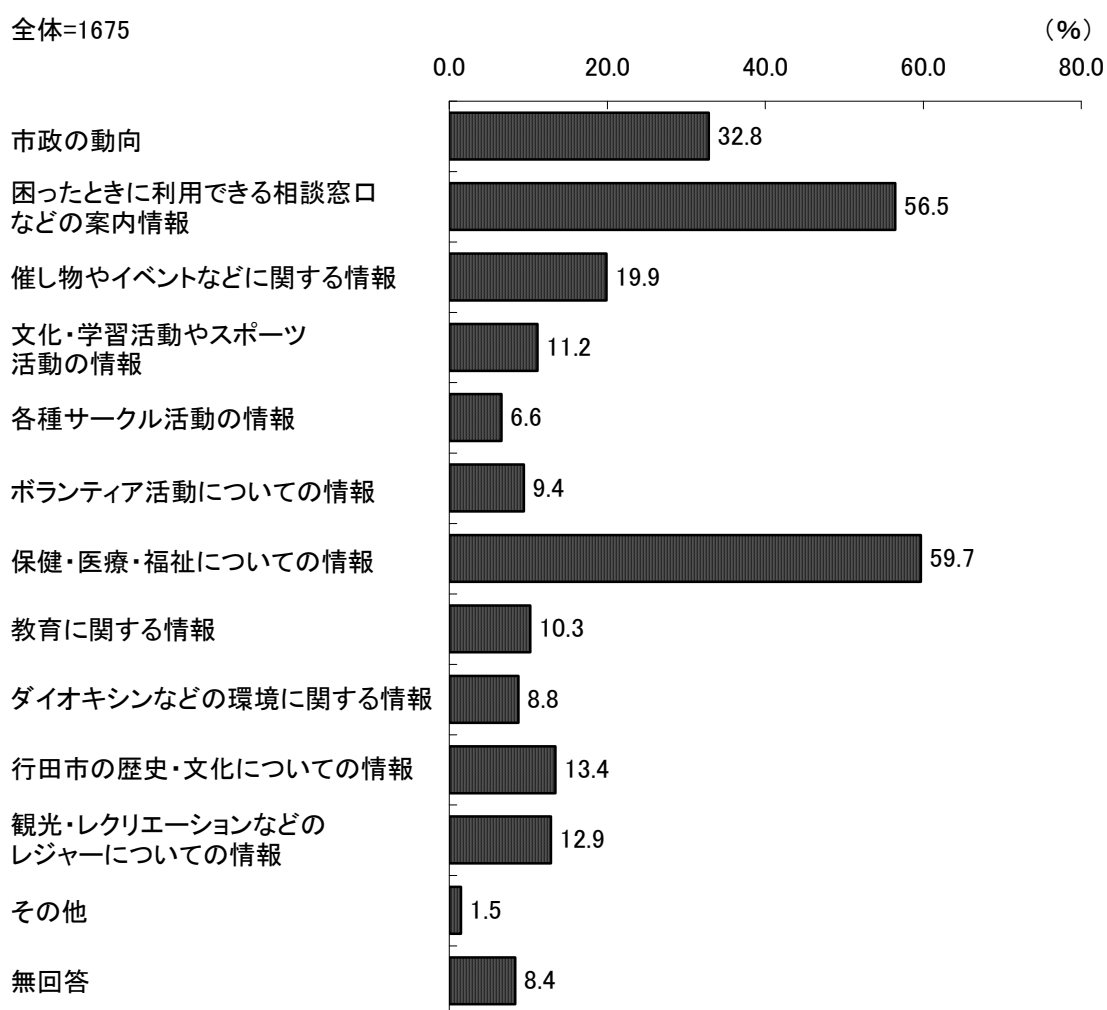
		n	公園・緑地の清掃は住民が積極的に参加すべきである	公園・緑地の設備や立て札などは市で管理し、あとは利用者のモラルにまかせるべきである	公園・緑地は公共のものであり、基本的に市が管理すべきである	その他	無回答
全体		1675	30.6	18.5	41.4	1.9	7.6
性別	男	807	33.3	17.6	41.3	1.9	5.9
	女	773	28.5	19.8	43.1	2.1	6.6

(11) 詳しく知りたい情報（複数回答）

◆「保健・医療・福祉についての情報」と「相談窓口などの案内情報」が半数以上

市から提供される情報の中で詳しく知りたい情報としては、「保健・医療・福祉についての情報」（59.7%）と「困ったときに利用できる相談窓口などの案内情報」（56.5%）が半数以上と最も多く、ついで「市政の動向」が32.8%となっている。

問 13 あなたは、市から提供される情報でもっと詳しく知りたいものがありますか。次の中から3つまで選び○をつけてください。



性別では、男性は「市政の動向」をあげる人が40.6%と多くなっている。

年齢別では、20代は「保健・医療・福祉についての情報」が68.2%、30代は「教育に関する情報」が27.7%と他の年代に比べて多くなっている。また、20代と30代では「催し物やイベントなどに関する情報」も3割前後と他の年代に比べて多い。

居住年数別では、居住年数が長くなるほど「市政の動向」が多くなっている。また、7年未満は「教育に関する情報」が2割前後と多くなっている。

(%)

		n	市政の動向	困ったときに利用できる相談窓口などの案内情報	催し物やイベントなどに関する情報	文化・学習活動やスポーツ活動の情報	各種サークル活動の情報	ボランティア活動についての情報	保健・医療・福祉についての情報	教育に関する情報	ダイオキシンなどの環境に関する情報	行田市の歴史・文化についての情報	観光・レクリエーションなどのレジャーについての情報
全体		1675	32.8	56.5	19.9	11.2	6.6	9.4	59.7	10.3	8.8	13.4	12.9
性別	男	807	40.6	56.0	19.8	13.9	4.7	8.8	59.0	10.7	7.7	15.9	13.9
	女	773	25.9	58.3	20.3	9.2	8.7	10.0	62.4	10.7	9.8	10.6	11.9
年齢	20～29歳	66	25.8	60.6	28.8	13.6	12.1	10.6	68.2	15.2	6.1	7.6	13.6
	30～39歳	148	15.5	52.0	35.1	12.2	8.1	7.4	60.1	27.7	6.8	5.4	16.9
	40～49歳	215	24.7	52.6	21.9	14.9	7.4	6.5	52.1	22.3	8.4	6.0	15.8
	50～59歳	285	34.0	60.4	16.5	16.1	9.5	11.9	54.7	7.7	9.5	10.2	15.1
	60歳以上	891	38.5	57.7	17.3	8.6	4.7	9.7	64.0	5.5	9.3	17.4	10.8
居住年数	3年未満	108	20.4	58.3	26.9	9.3	9.3	12.0	56.5	19.4	9.3	7.4	17.6
	3年以上7年未満	126	24.6	56.3	26.2	12.7	8.7	4.8	65.9	21.4	4.8	14.3	14.3
	7年以上15年未満	175	25.1	56.0	21.7	12.6	10.3	6.3	55.4	13.1	12.6	9.7	17.7
	15年以上20年未満	98	32.7	54.1	20.4	12.2	10.2	10.2	45.9	12.2	10.2	18.4	12.2
	20年以上	1094	36.7	57.2	18.2	11.2	5.2	10.1	62.5	7.9	8.5	13.8	11.5

(12) インターネットが利用できるパソコンの保有状況

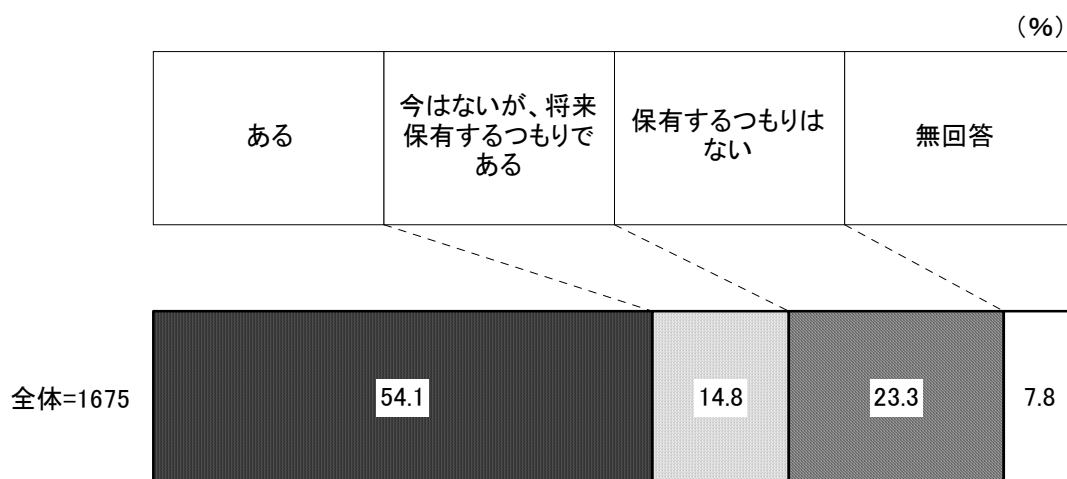
◆インターネットの利用できるパソコンが「ある」は54.1%

インターネットが利用できるパソコンが「ある」としている人は54.1%と半数以上を占めている。「今はないが、将来保有するつもりである」は14.8%、「保有するつもりはない」は23.3%となっている。

性別では、大きな差は特にみられない。

年齢別では、30～50代は「ある」とする人が7割強と多いが、60歳以上では41.6%と少なく、「保有するつもりはない」が35.7%となっている。

問14(1)あなたの家庭にインターネットが利用できるパソコンはありますか。次の中から1つ選び○をつけてください。



(%)

		n	ある	今はないが、将来保有するつもりである	保有するつもりはない	無回答
全体		1675	54.1	14.8	23.3	7.8
性別	男	807	54.6	17.6	21.9	5.8
	女	773	55.4	12.4	25.4	6.9
年齢	20～29歳	66	65.2	25.8	7.6	1.5
	30～39歳	148	73.0	18.2	7.4	1.4
	40～49歳	215	72.1	14.9	8.4	4.7
	50～59歳	285	71.9	13.3	9.1	5.6
	60歳以上	891	41.6	14.0	35.7	8.6

(13) インターネットを利用した国・県・市への申請届出の認知

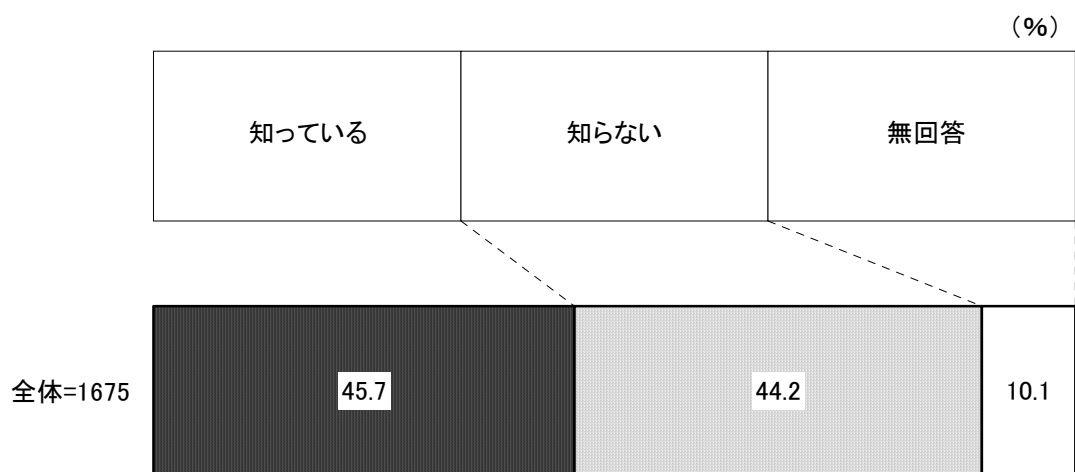
◆インターネットを利用した申請届出の認知率は45.7%

インターネットを利用して国・県・市への申請届出ができることを「知っている」人は45.7%、「知らない」人は44.2%と半数ずつとなっている。

性別では、男性は「知っている」とする人が54.2%と半数以上を占めている。

年齢別では、20代で「知らない」とする人が54.5%と最も多くなっている。

(2) インターネットに接続されたパソコンを利用して、国・県・市へ申請届出することができる手続きがあることを知っていますか。



(%)

		n	知っている	知らない	無回答
全体		1675	45.7	44.2	10.1
性別	男	807	54.2	37.3	8.6
	女	773	38.7	53.0	8.3
年齢	20～29 歳	66	43.9	54.5	1.5
	30～39 歳	148	50.0	48.0	2.0
	40～49 歳	215	50.2	44.7	5.1
	50～59 歳	285	54.0	39.3	6.7
	60 歳以上	891	42.8	45.1	12.1

(14) インターネットを使って利用したい市のサービスの有無

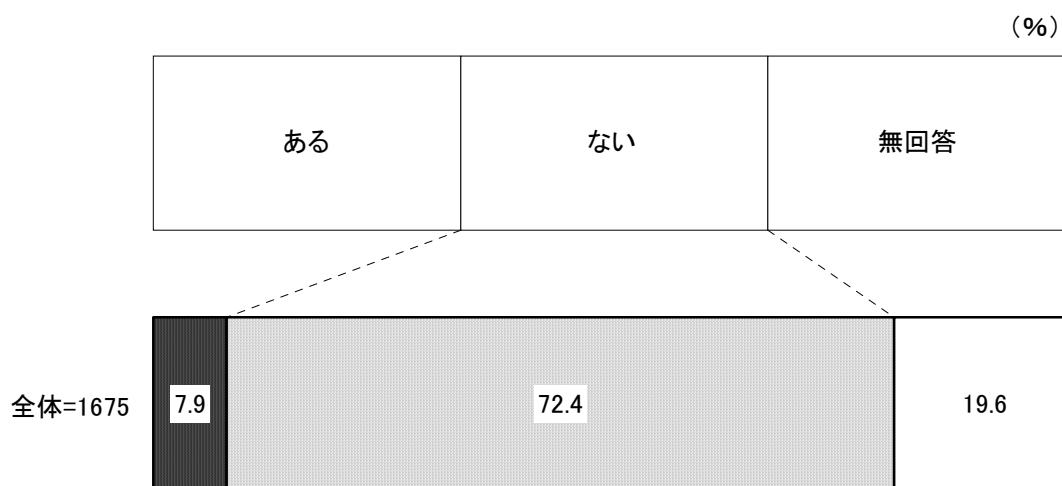
◆利用したいサービスが「ない」が72.4%

インターネットを使って利用したい市のサービスが、「ない」が72.4%と多く、「ある」(7.9%)を大きく上回っている。

性別では、男性で「ある」が10.3%と女性よりやや多くなっている。

年齢別では、40代、50代で「ある」が1割強となっている。

(3) インターネットを使って利用したいと思う市のサービスがありますか。



(%)

		n	ある	ない	無回答
全体		1675	7.9	72.4	19.6
性別	男	807	10.3	71.4	18.3
	女	773	5.6	77.1	17.3
年齢	20～29歳	66	7.6	87.9	4.5
	30～39歳	148	7.4	86.5	6.1
	40～49歳	215	11.6	80.5	7.9
	50～59歳	285	12.6	74.7	12.6
	60歳以上	891	5.8	68.4	25.8

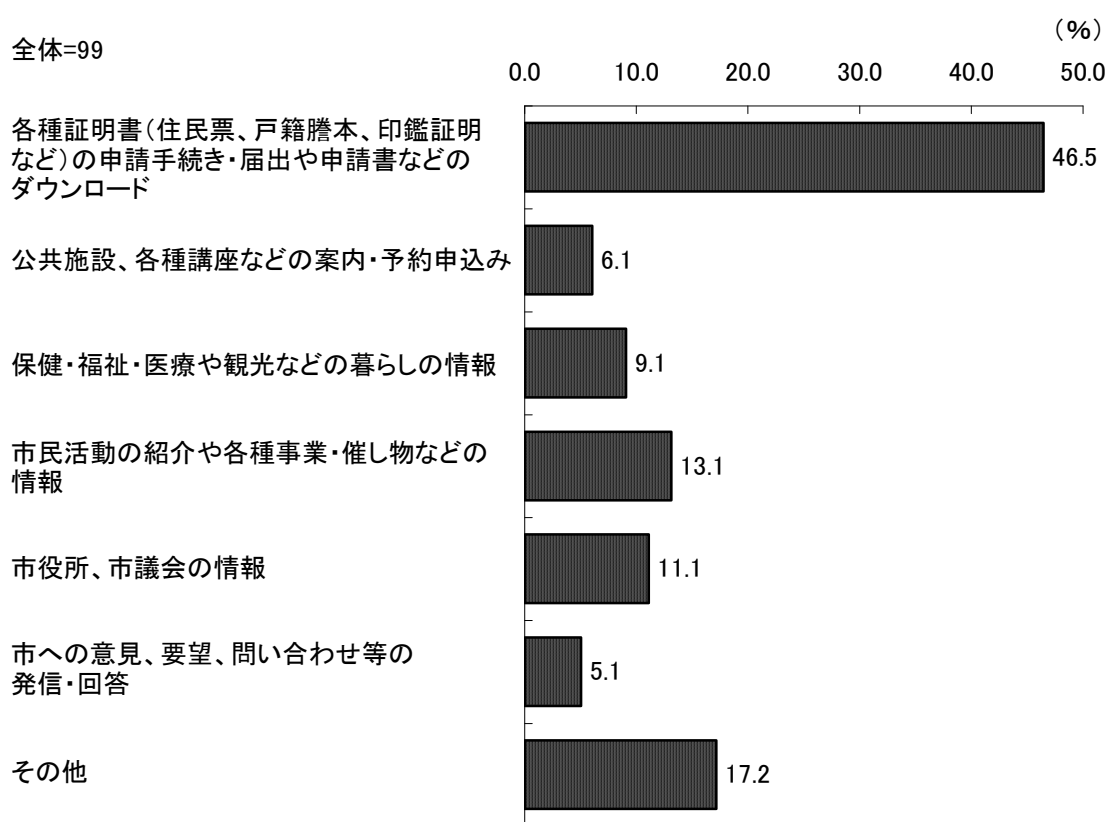
(15) インターネットを使って利用したい市のサービス

◆「各種証明書の申請手続き・届出や申請書などのダウンロード」が最も多い

インターネットを使って利用したい市のサービスがあると回答した人に具体的なサービスを自由回答によりあげてもらったところ、「各種証明書の申請手続き・届出や申請書などのダウンロード」をあげる人が約半数と多くなっている。

(4) <(3)で「1. ある」とお答えになった方にお尋ねします>

具体的にどんなサービスを利用したいですか。自由にご記入ください。



(16) 市のホームページの閲覧状況

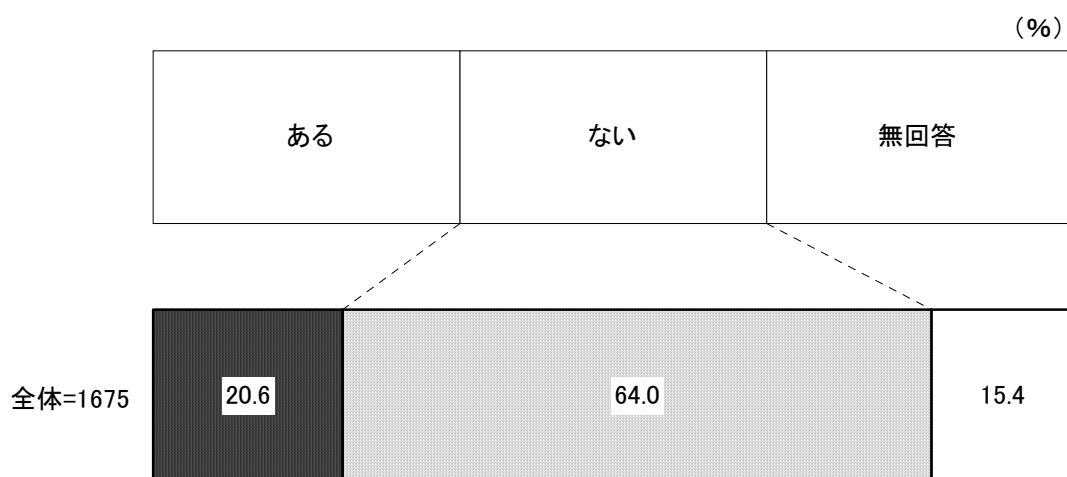
◆見たことがない市民が64.0%、見たことがある市民は20.6%

市のホームページ（携帯電話用サービスを含む）の閲覧状況は、「ない」が64.0%と多く、「ある」は20.6%にとどまる。

性別では、男性は「ある」が24.3%と女性よりやや多くなっている。

年齢別では、30代と40代で「ある」が4割弱と多くなっている。

(5)あなたは、市のホームページ(携帯電話用サービスを含む)を見たことがありますか。



(%)

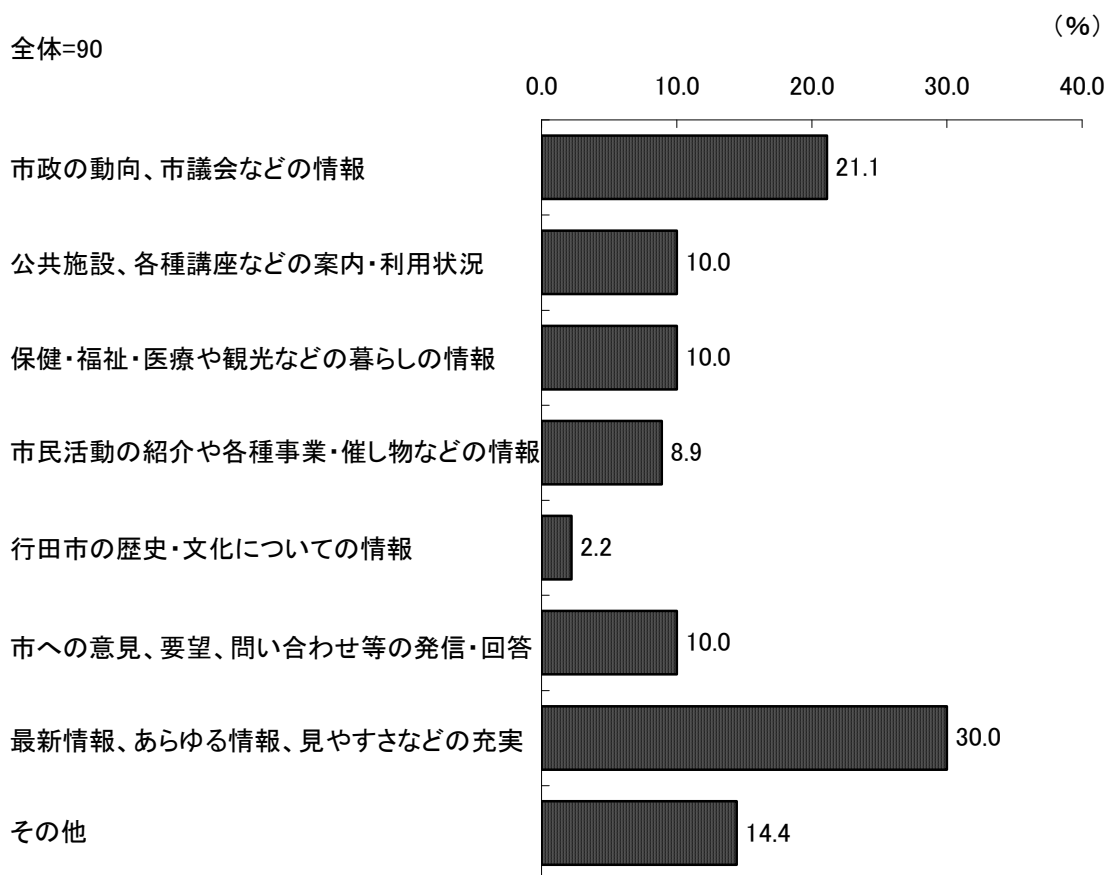
		n	ある	ない	無回答
全体		1675	20.6	64.0	15.4
性別	男	807	24.3	61.2	14.5
	女	773	18.6	68.3	13.1
年齢	20～29歳	66	28.8	68.2	3.0
	30～39歳	148	37.8	56.1	6.1
	40～49歳	215	37.7	52.1	10.2
	50～59歳	285	30.5	59.3	10.2
	60歳以上	891	11.1	70.1	18.7

(17) 市のホームページに掲載してほしい情報

◆「最新情報、あらゆる情報、見やすさなどの充実」をあげる人が多い

市のホームページに掲載してほしい情報を自由回答により記入してもらったところ、「最新情報、あらゆる情報、見やすさなどの充実」をあげる人が 30.0%と最も多く、ついで「市政の動向、市議会などの情報」が 21.1%となっている。

(6)市のホームページに掲載してほしい情報があれば具体的にご記入ください。

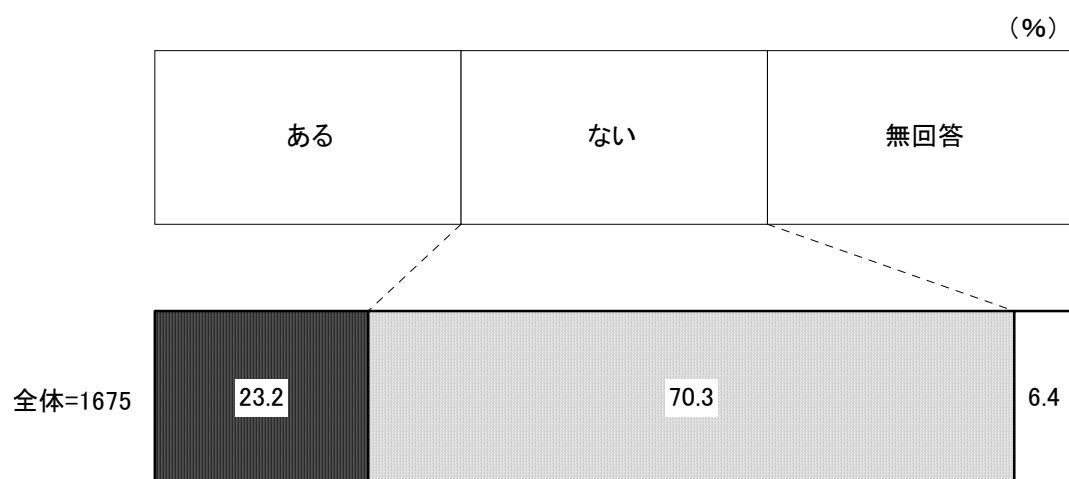


(18) 市内循環バスの利用状況

◆市内循環バスの利用者は23.2%

市内循環バスを利用したことが「ある」は23.2%にとどまり、「ない」が70.3%を占めている。

問 15(1)市内循環バスを利用したことはありますか。



性別にみると、女性の利用率が高くなっている。

年齢別では、30代と50代の利用率が低くなっている。

居住地区別では、行田、星宮、太井では「ある」との回答が30%を超えているが、下忍と太田では13.9%と低く、「ない」との回答が8割を超えている。

(%)

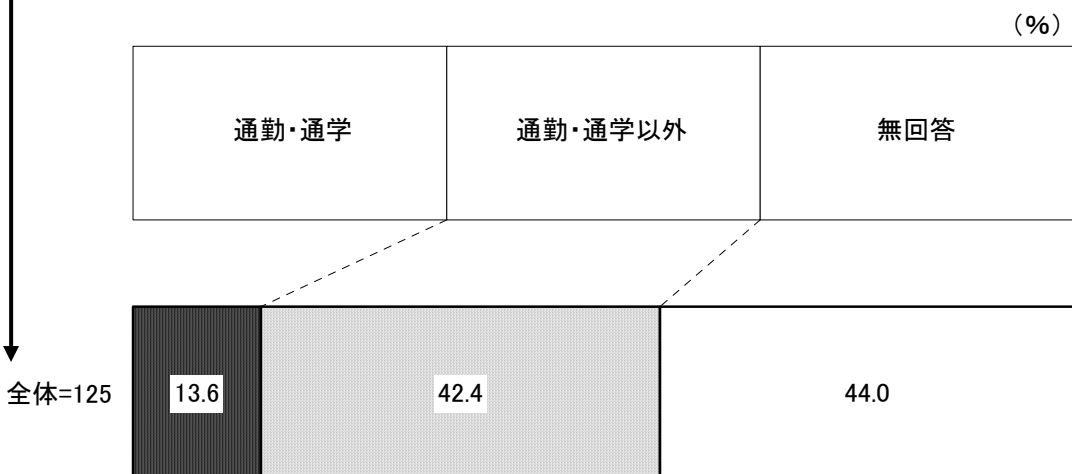
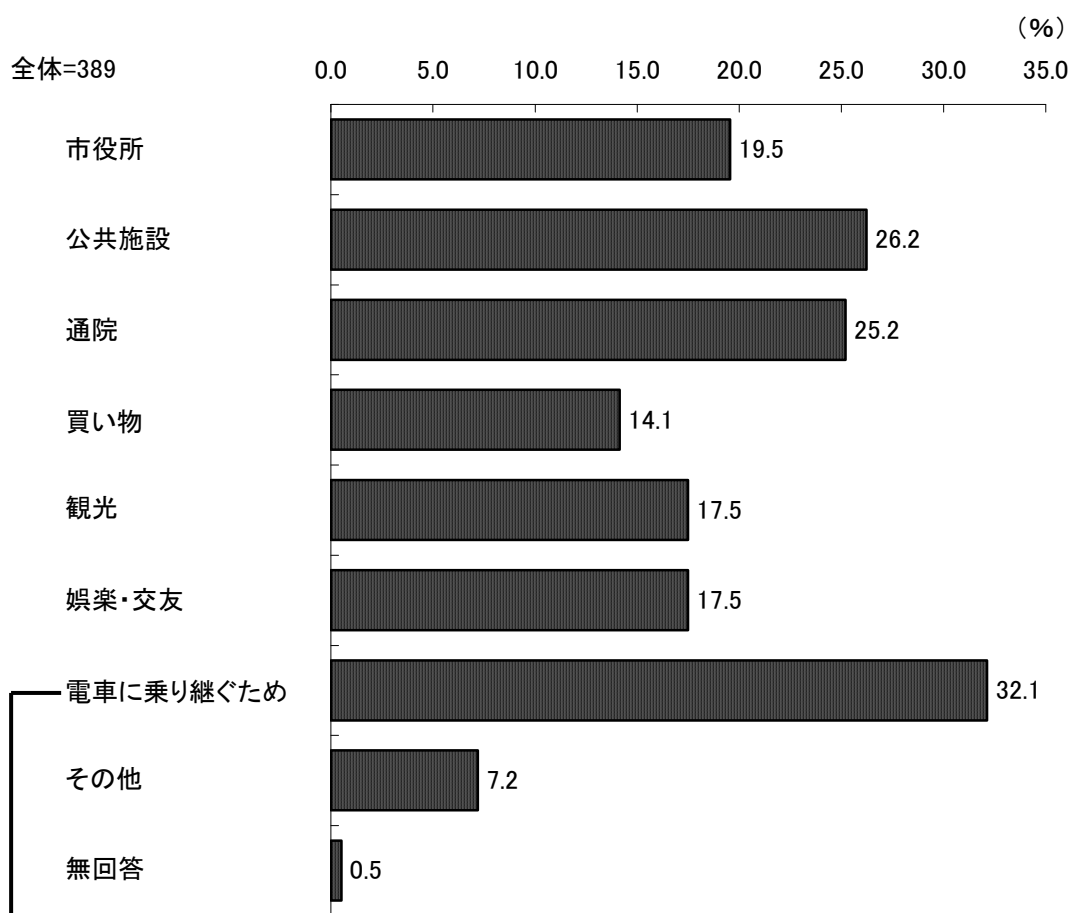
		n	ある	ない	無回答
全体		1675	23.2	70.3	6.4
性別	男	807	18.7	75.5	5.8
	女	773	28.1	67.4	4.5
年齢	20～29歳	66	27.3	71.2	1.5
	30～39歳	148	17.6	81.1	1.4
	40～49歳	215	24.2	72.6	3.3
	50～59歳	285	16.1	77.9	6.0
	60歳以上	891	25.8	67.3	6.8
居住地区	忍	135	23.0	71.9	5.2
	行田	102	34.3	58.8	6.9
	佐間	126	20.6	72.2	7.1
	持田	250	28.4	68.4	3.2
	星河	138	23.9	71.7	4.3
	長野	226	15.5	79.2	5.3
	星宮	41	34.1	61.0	4.9
	下忍	36	13.9	80.6	5.6
	荒木	75	14.7	77.3	8.0
	須加	35	25.7	62.9	11.4
	北河原	21	28.6	61.9	9.5
	埼玉	97	21.6	70.1	8.2
	太田	122	13.9	82.0	4.1
	太井	122	32.8	63.1	4.1
	南河原	59	18.6	71.2	10.2

(19) 市内循環バスの利用目的（複数回答）

◆ 「電車に乗り継ぐため」「公共施設」「通院」が3割前後

市内循環バスの利用目的は、「電車に乗り継ぐため」(32.1%)、「公共施設」(26.2%)、「通院」(25.2%)が3割前後で最も多くなっている。
 「電車に乗り継ぐため」と回答した人の目的は、「通勤・通学」が13.6%、「通勤・通学以外」が42.4%となっている。

(2) <(1)で「1. ある」とお答えになった方にお尋ねします>
 どのような目的で利用していますか。次の中から該当するものすべてを選び○をつけてください。



性別にみると、男性では「電車に乗り継ぐため」が 39.7%と最も多くなっている。一方、女性では「通院」が 28.6%と男性に比べ多くなっている。

年齢別では、20～40代では「電車に乗り継ぐため」が4割前後と最も多くなっている。これに対し、60歳以上では「通院」が 33.0%と最も多くなっている。また、20代と30代では「娯楽・交友」、40代と60歳以上では「公共施設」も30%以上となっている。

(%)

		n	市役所	公共施設	通院	買い物	観光	娯楽・交友	電車に乗り継ぐため	その他
全体		389	19.5	26.2	25.2	14.1	17.5	17.5	32.1	7.2
性別	男	151	19.2	26.5	17.9	7.9	17.9	15.9	39.7	7.3
	女	217	18.9	27.6	28.6	18.0	18.0	19.8	28.6	6.9
年齢	20～29歳	18	16.7	11.1	0.0	11.1	0.0	33.3	44.4	11.1
	30～39歳	26	0.0	11.5	0.0	11.5	15.4	38.5	46.2	7.7
	40～49歳	52	7.7	32.7	9.6	5.8	15.4	21.2	38.5	5.8
	50～59歳	46	15.2	23.9	15.2	17.4	21.7	8.7	32.6	15.2
	60歳以上	230	24.8	30.0	33.0	15.7	18.7	15.2	28.7	4.3

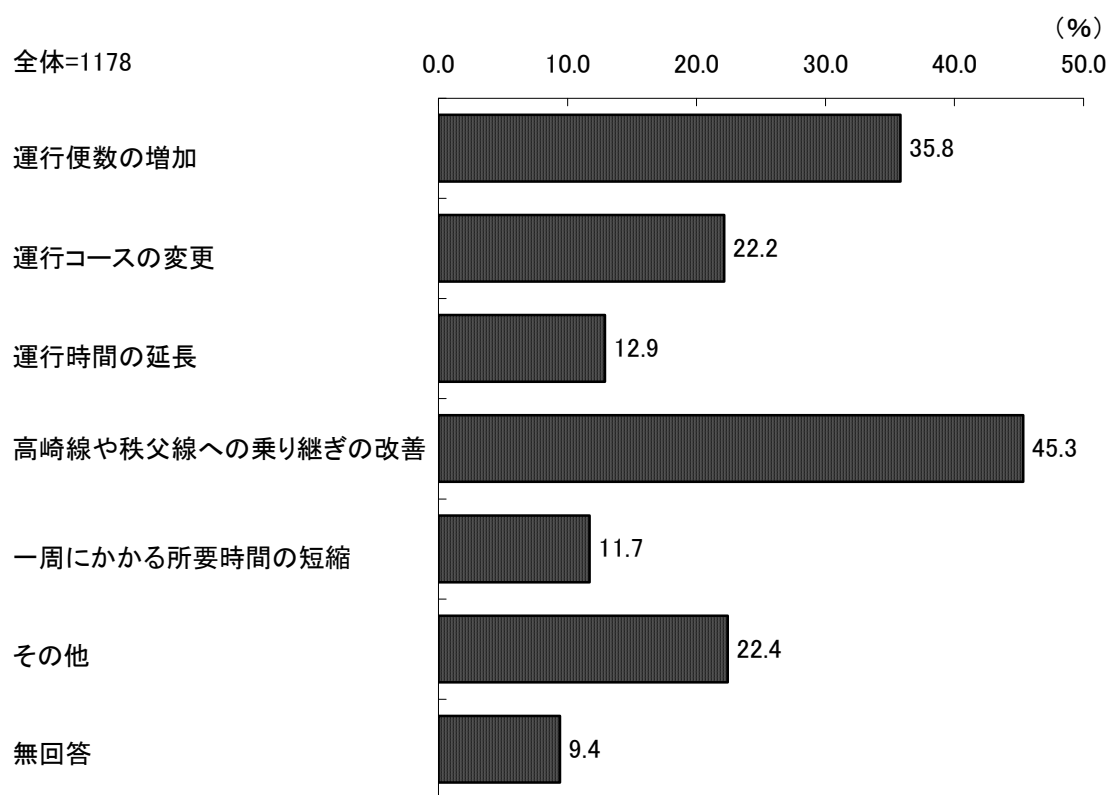
(20) 市内循環バスの今後の利用条件（複数回答）

◆「高崎線や秩父線への乗り継ぎの改善」45.3%、「運行便数の増加」35.8%

市内循環バスを利用したことがない人の今後の利用条件については、「高崎線や秩父線への乗り継ぎの改善」が45.3%と最も多く、ついで「運行便数の増加」が35.8%となっている。

(3) <(1)で「2. ない」とお答えになった方にお尋ねします>

どのようになれば利用しますか。次の中から該当するものすべてを選び○をつけてください。



性別にみてもあまり大きな差はみられない。

年齢別では、20～50代で「高崎線や秩父線への乗り継ぎの改善」が5割を超えている。また、20代では「運行便数の増加」も5割を超え多くなっている。「運行時間の延長」は20代で、「運行コースの変更」は40代で約3割と他の年代より多くなっている。

居住地区別にみると、埼玉で「高崎線や秩父線への乗り継ぎの改善」が61.8%と目立って多くなっている。また、下忍では「運行コースの変更」、太井と南河原では「運行便数の増加」が5割近くと他の地区に比べ多くなっている。

(%)

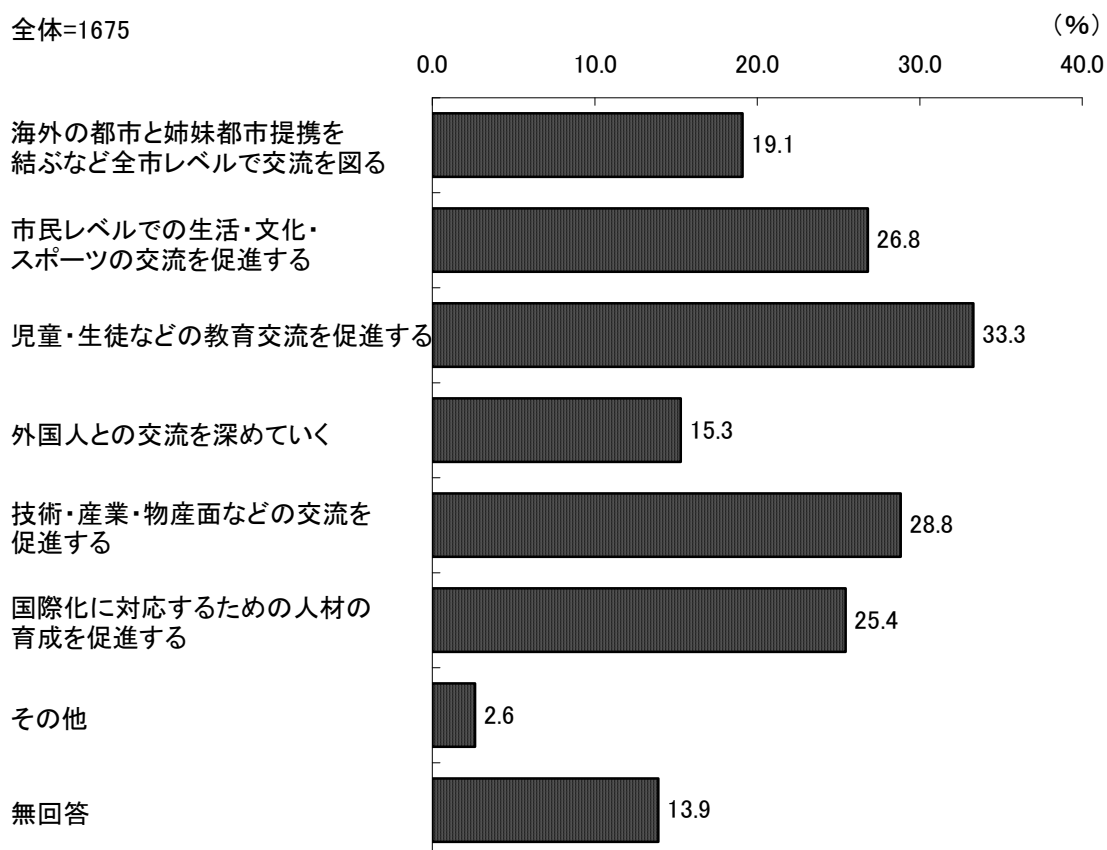
		n	運行便数の増加	運行コースの変更	運行時間の延長	高崎線や秩父線への乗り継ぎの改善	一周にかかる所要時間の短縮	その他
全体		1178	35.8	22.2	12.9	45.3	11.7	22.4
性別	男	609	37.4	21.3	14.9	45.5	9.2	22.3
	女	521	34.0	22.5	10.9	46.8	15.4	22.8
年齢	20～29歳	47	53.2	21.3	27.7	57.4	10.6	12.8
	30～39歳	120	42.5	21.7	14.2	52.5	10.8	21.7
	40～49歳	156	44.9	30.1	17.3	51.9	16.0	20.5
	50～59歳	222	39.6	25.7	18.5	53.2	13.1	20.3
	60歳以上	600	29.8	19.2	8.7	39.7	10.7	24.5
居住地区	忍	97	28.9	12.4	11.3	51.5	12.4	22.7
	行田	60	28.3	13.3	11.7	41.7	8.3	25.0
	佐間	91	34.1	19.8	8.8	53.8	19.8	16.5
	持田	171	41.5	22.2	14.6	42.7	9.4	20.5
	星河	99	36.4	24.2	10.1	43.4	9.1	26.3
	長野	179	36.9	21.2	12.8	50.3	13.4	16.8
	星宮	25	28.0	12.0	8.0	36.0	16.0	36.0
	下忍	29	27.6	48.3	6.9	37.9	10.3	17.2
	荒木	58	31.0	13.8	12.1	36.2	8.6	34.5
	須加	22	22.7	18.2	9.1	40.9	9.1	36.4
	北河原	13	38.5	30.8	23.1	53.8	7.7	23.1
	埼玉	68	39.7	33.8	16.2	61.8	13.2	10.3
	太田	100	34.0	25.0	18.0	44.0	13.0	28.0
	太井	77	46.8	35.1	22.1	29.9	9.1	27.3
南河原	42	45.2	19.0	9.5	50.0	19.0	21.4	

(21) 望ましい国際交流の促進方法（複数回答）

◆「児童・生徒などの教育交流の促進」「技術・産業・物産面などの交流の促進」「市民レベルでの生活・文化・スポーツの交流の促進」「国際化に対応するための人材の育成の促進」が3割前後

望ましい国際交流の促進方法は、「児童・生徒などの教育交流を促進する」が33.3%と最も多く、ついで「技術・産業・物産面などの交流を促進する」(28.8%)、「市民レベルでの生活・文化・スポーツの交流を促進する」(26.8%)、「国際化に対応するための人材の育成を促進する」(25.4%)が続いている。

問 16 国際化社会に対応して本市の国際交流をどのように促進すべきだとお考えですか。次の中から2つまで選び○をつけてください。



性別では、男性は「市民レベルでの生活・文化・スポーツの交流を促進する」をあげる人が女性に比べて多くなっている。

年齢別では、30代は「児童・生徒などの教育交流を促進する」が46.6%と約半数を占めている。「海外の都市と姉妹都市提携を結ぶなど全市レベルで交流を図る」は20～40代で、「外国人との交流を深めていく」は20代で約3割となっている。

(%)

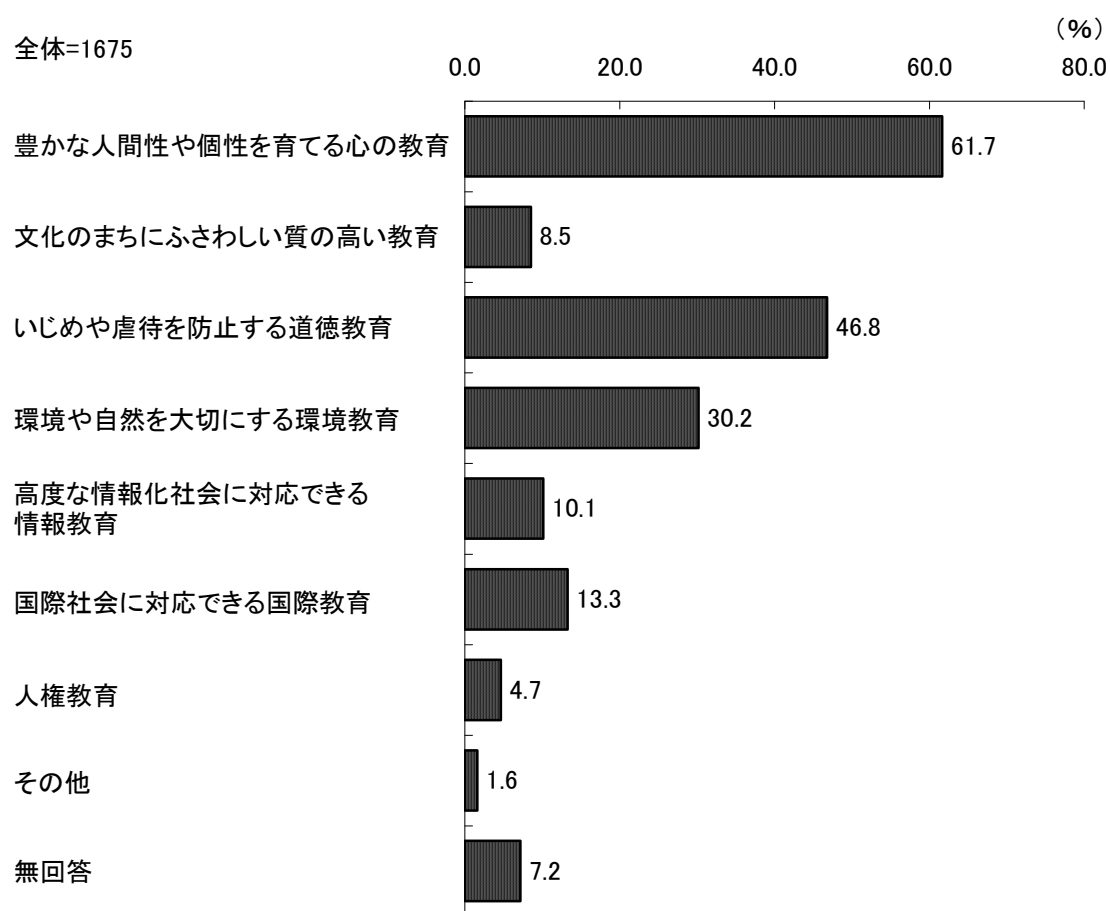
		n	海外の都市と姉妹都市提携を結ぶなど全市レベルで交流を図る	市民レベルでの生活・文化・スポーツの交流を促進する	児童・生徒などの教育交流を促進する	外国人との交流を深めていく	技術・産業・物産面などの交流を促進する	国際化に対応するための人材の育成を促進する	その他
全体		1675	19.1	26.8	33.3	15.3	28.8	25.4	2.6
性別	男	807	18.1	30.6	32.7	16.2	31.2	26.5	2.7
	女	773	21.1	22.9	36.1	15.4	27.3	25.5	2.7
年齢	20～29歳	66	31.8	22.7	34.8	27.3	33.3	24.2	1.5
	30～39歳	148	29.1	22.3	46.6	21.6	23.0	14.2	4.1
	40～49歳	215	27.0	25.1	36.7	20.0	23.7	23.3	3.3
	50～59歳	285	20.0	26.7	34.4	17.5	32.3	27.0	2.5
	60歳以上	891	14.7	28.4	31.2	12.0	30.0	28.1	2.6

(22) 力を入れるべき教育（複数回答）

◆「豊かな人間性や個性を育てる心の教育」が61.7%

力を入れるべき教育は、「豊かな人間性や個性を育てる心の教育」が61.7%と最も多く、ついで「いじめや虐待を防止する道徳教育」（46.8%）、「環境や自然を大切にする環境教育」（30.2%）となっている。

問 17 市の教育方針として、今後どのような教育に力を入れるべきとお考えですか。次の中から2つまで選び○をつけてください。



性別では、男性で「高度な情報化社会に対応できる情報教育」が女性に比べやや多くなっている。

年齢別では、50代は「環境や自然を大切にする環境教育」が4割と他の年代に比べて多くなっている。また、「国際社会に対応できる国際教育」は年齢が若くなるほど多くなっている。

(%)

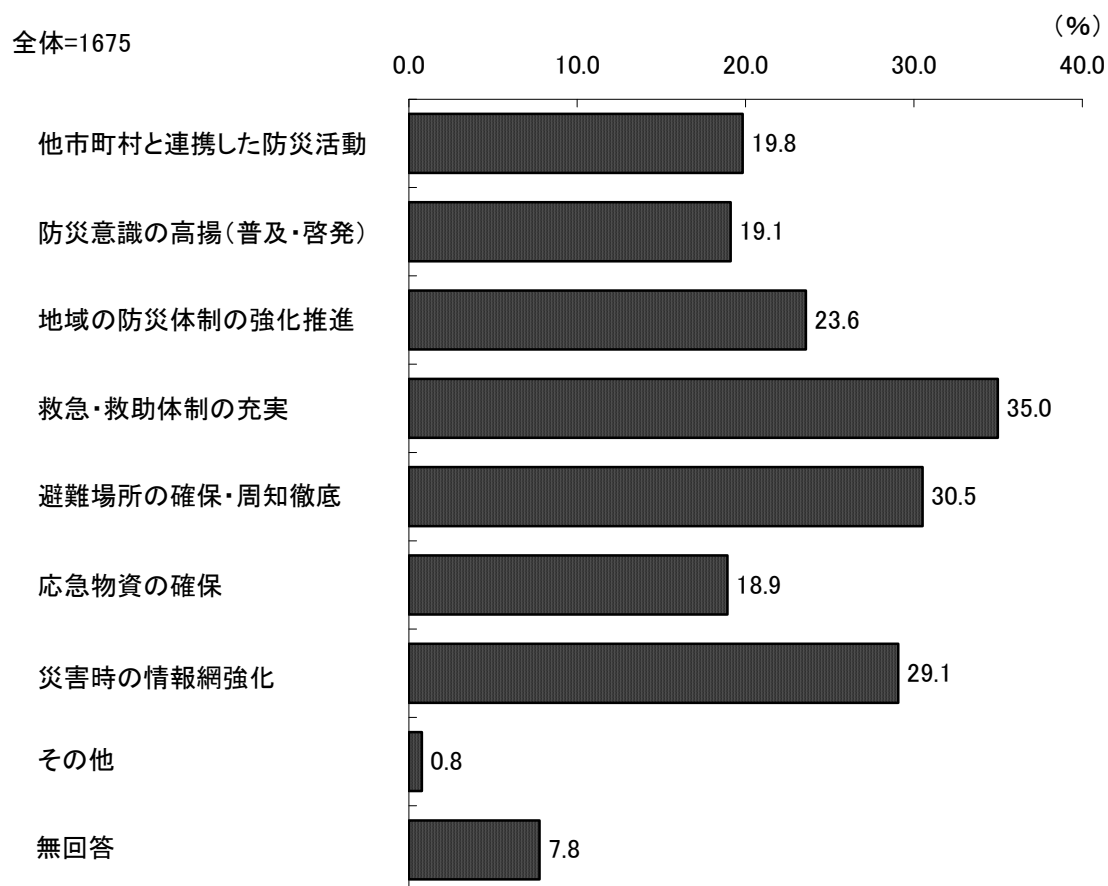
		n	豊かな人間性や個性を育てる心の教育	文化のまちにふさわしい質の高い教育	いじめや虐待を防止する道徳教育	環境や自然を大切にする環境教育	高度な情報化社会に対応できる情報教育	国際社会に対応できる国際教育	人権教育
全体		1675	61.7	8.5	46.8	30.2	10.1	13.3	4.7
性別	男	807	61.3	9.7	45.2	31.7	13.8	13.0	5.1
	女	773	64.4	7.5	49.2	29.6	6.2	14.4	4.3
年齢	20～29歳	66	65.2	6.1	45.5	33.3	12.1	21.2	6.1
	30～39歳	148	61.5	9.5	44.6	29.1	11.5	18.9	6.1
	40～49歳	215	61.9	8.4	48.8	27.4	10.2	16.3	4.2
	50～59歳	285	59.6	7.4	44.2	39.3	11.2	12.3	4.2
	60歳以上	891	63.7	8.9	48.1	28.3	9.2	11.7	4.6

(23) 防災体制として重要なこと（複数回答）

◆「救急・救助体制の充実」「避難場所の確保・周知徹底」「災害時の情報網強化」が3割前後

防災体制として重要なことは、「救急・救助体制の充実」（35.0%）、「避難場所の確保・周知徹底」（30.5%）、「災害時の情報網強化」（29.1%）が3割前後と多くなっている。最も少ない「応急物資の確保」でも18.9%と2割近い人があげており、多様な施策が求められている。

問 18 市の防災体制として、どのような施策が重要だとお考えですか。次の中から2つまで選び○をつけてください。



性別では、男性は「他市町村と連携した防災活動」をあげる人がやや多くなっている。一方、女性は「避難場所の確保・周知徹底」がやや多くなっている。

年齢別では、20代では「救急・救助体制の充実」、30代では「応急物資の確保」が他の年代に比べて多くなっている。

(%)

		n	他市町村と連携した防災活動	防災意識の高揚(普及・啓発)	地域の防災体制の強化推進	救急・救助体制の充実	避難場所の確保・周知徹底	応急物資の確保	災害時の情報網強化
全体		1675	19.8	19.1	23.6	35.0	30.5	18.9	29.1
性別	男	807	23.3	21.8	26.8	35.6	27.8	17.2	27.6
	女	773	16.7	17.5	21.1	36.0	33.4	21.1	31.2
年齢	20～29 歳	66	19.7	21.2	24.2	45.5	36.4	21.2	30.3
	30～39 歳	148	18.2	18.2	15.5	39.2	34.5	28.4	25.7
	40～49 歳	215	18.1	20.5	20.0	36.3	30.2	24.2	28.8
	50～59 歳	285	17.2	18.2	27.0	32.6	31.6	20.7	31.6
	60 歳以上	891	21.5	20.1	25.0	35.0	29.3	15.3	29.2

(24) ものづくり大学施設の見学・利用状況

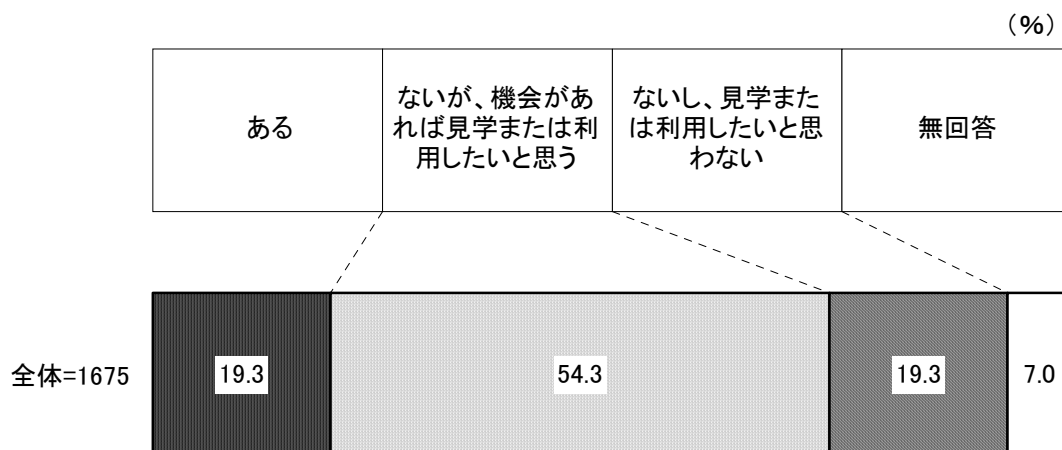
◆半数強の市民が、「見学・利用したことがないが機会があればしたい」と思っている

ものづくり大学施設の見学・利用状況は、「ないが、機会があれば見学または利用したいと思う」が54.3%と最も多い。「ある」、「ないし、見学または利用したいと思わない」は19.3%となっている。大学の見学・利用意向がある（「ある」、「ないが、機会があれば見学または利用したいと思う」と回答した）割合は73.6%と多数を占めている。

性別では、男性で「ないが、機会があれば見学または利用したいと思う」がやや多くなっている。

年齢別では、40代で「ある」が24.7%と最も多くなっている。

問 19(1)大学の施設を見学または利用したことがありますか。次の中から1つ選び○をつけてください。



(%)

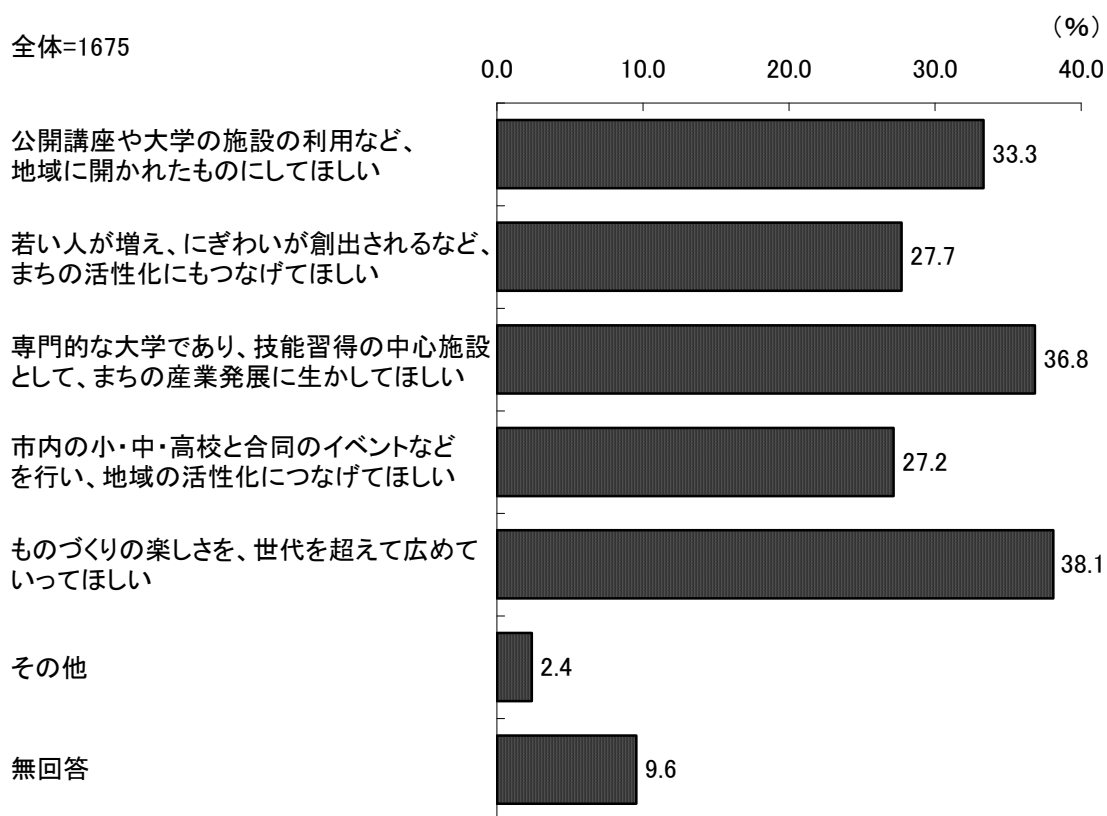
		n	ある	ないが、機会があれば見学または利用したいと思う	ないし、見学または利用したいと思わない	無回答
全体		1675	19.3	54.3	19.3	7.0
性別	男	807	18.8	58.2	18.0	5.0
	女	773	20.2	51.6	21.5	6.7
年齢	20～29 歳	66	10.6	53.0	34.8	1.5
	30～39 歳	148	14.9	60.1	23.6	1.4
	40～49 歳	215	24.7	55.3	17.7	2.3
	50～59 歳	285	21.1	56.5	17.5	4.9
	60 歳以上	891	19.1	53.4	18.7	8.8

(25) ものづくり大学に期待すること（複数回答）

◆「ものづくりの楽しさを、世代を超えて広めてほしい」「専門的な大学であり、技能習得の中心施設として、まちの産業発展に生かしてほしい」「公開講座や大学の施設の利用など、地域に開かれたものにしてほしい」が上位

ものづくり大学に期待することとしては、「ものづくりの楽しさを、世代を超えて広めてほしい」が38.1%と最も多く、ついで「専門的な大学であり、技能習得の中心施設として、まちの産業発展に生かしてほしい」（36.8%）、「公開講座や大学の施設の利用など、地域に開かれたものにしてほしい」（33.3%）、「若い人が増え、にぎわいが創出されるなど、まちの活性化にもつなげてほしい」（27.7%）、「市内の小・中・高校と合同のイベントなどを行い、地域の活性化につなげてほしい」（27.2%）が3割前後となっており、多様な期待が寄せられている。

(2)市では、ものづくり大学を核としたまちづくりに力を入れています。あなたが、今後、大学に期待することは何ですか。次の中から2つまで選び○をつけてください。



性別では、男性で「公開講座や大学の施設の利用など、地域に開かれたものにしてほしい」がやや多くなっている。

年齢別では、50代は「公開講座や大学の施設の利用など、地域に開かれたものにしてほしい」が45.6%と約半数を占めている。また、30代では「若い人が増え、にぎわいが創出されるなど、まちの活性化にもつなげてほしい」や「市内の小・中・高校と合同のイベントなどを行い、地域の活性化につなげてほしい」が4割近くと他の年代に比べて多くなっている。

(%)

		n	公開講座や大学の施設の利用など、 地域に開かれたものにしてほしい	若い人が増え、にぎわいが創出される など、まちの活性化にもつなげてほしい	専門的な大学であり、技能習得の 中心施設として、まちの産業発展に 生かしてほしい	市内の小・中・高校と合同のイベント などを行い、地域の活性化に つなげてほしい	ものづくりの楽しさを、世代を超えて 広めてほしい	その他
全体		1675	33.3	27.7	36.8	27.2	38.1	2.4
性別	男	807	37.3	27.1	37.9	29.1	37.8	2.0
	女	773	30.9	28.8	36.6	26.0	39.5	2.8
年齢	20～29歳	66	40.9	31.8	42.4	27.3	25.8	9.1
	30～39歳	148	33.1	37.8	31.8	37.2	29.1	4.7
	40～49歳	215	38.1	23.3	37.2	35.8	33.5	3.7
	50～59歳	285	45.6	21.1	37.2	26.3	39.6	0.7
	60歳以上	891	28.7	29.4	37.6	24.1	41.4	1.9

(26) 市民の通勤・通学、買物等の主な行き先

◆「日常的な買物」と「病院等の利用」は「市内」が約6～7割

「市内」との回答が最も多いのは、「日常的な買物」(68.1%)、ついで「病院等の利用」(57.9%)となっている。「週末の買物」については、「市内」(36.9%)と「近隣市町」(35.2%)がほぼ同数となっている。

一方、「自然に親しむ近距離の行楽」「歴史・文化に親しむ近距離の行楽」「音楽会、観劇、美術鑑賞等」については「県外」が約2～3割となっている。

問 20 あなたの通勤・通学先や、買物、行楽などの主たる行き先はどこですか。次の項目ごとに該当する番号をそれぞれ1つ選び○をつけてください。

